

全 刀 商

全国刀剣商業協同組合 年報

第 32 号





地水火風空・題目図鐺 銘 信家

鉄槌目地木瓜形毛彫打返耳

縦：94mm 横：88.5mm 切羽台厚さ：3.9mm 耳際厚さ：6.5mm

身を護るものを何一つ持たず、天と地の間で一人佇んでいる。圧倒的に孤独でありながら、この上なく満たされている。そのような境地に生身の人間は辿り着けるのか。この鐺を手に持った時に感じた、衝撃といってもいいような個人的な感想である。

重厚でありながらどこまでも明朗、透徹で、優美といってもよいくらい軽やか。そして冷厳でもある。目に心地良い安定感のある形は十字木瓜形を構成する長方形の比率からくるものであろうか。もちろん、計算などではなく、経験と感覚によるものなのだろうが…。

武道の達人の動きが、まるで即興で舞を舞っているかのように軽やかで、それでいて隙がないように、信家も即興で文字を刻んでいったのではないかと思わせるほど流れるような自在な鑿運びである。「南無妙法蓮華經」のお題目は鐺の依頼人の希望で

あろうか、それとも自らの信仰によるものであろうか。文字を順に追っていくと、「華」「經」の向きが突如として前の文字に追従するように変わるところに、作者の何かしらの意図を感じる。

そして密教の五輪文字「地」「水」「火」「風」「空」と山の図の毛彫り。「空」と「風」の順序が入れ替わり、また「火」と「空」の間に山図を入れたのは何故か。信家に聞いてみたい。

あらゆる世界を構成する五大要素。循環し、育みながら壊し、また新たに生み出す。有から無へ、無から有へ。果てしなくつながっていくほんの刹那に私たちの今がある。

伊達侯爵家旧蔵の本作。信家に求めたのは誰だったのだろう。常に身近に死を意識していたであろう武士の需めに対する信家の答えが垣間見られる作品である。
(朱美)

■ 巻頭言／刀剣社会における刀剣商の役割	深海信彦	2
■ 令和5年度全国刀剣商業協同組合の活動に寄せて		5
再開発	伊波賢一	5
これからの刀剣業界について	土肥豊久	5
組織の力	服部晁治	6
組合事業について	清水儀孝	6
温故知新 —『戦後日本刀事件史』を読む—	嶋田伸夫	7
友人の進んできた道、僕の選んだ道	網取譲一	7
最近ふと思ったこと	赤荻 稔	8
変化の中の刀剣界	飯田慶雄	9
活動に向けて	大平岳子	9
組合と業界の今後	生野 正	10
愛刀家の裾野を広げたい	瀬下 明	10
どうすれば	松本義行	11
若い力に期待する	冥賀吉也	11
微力ですが	持田具宏	12
これからも	吉井唯夫	12
■ 業界関連情報詳説		13
第1回「令和の名刀・名工展」は4名が大賞受賞		13
大賞受賞者の経歴／受賞者一覧		15
「大刀剣市 2022」3年ぶりで東京美術倶楽部を会場に開催		19
「刀剣評価鑑定士」に期待される役割と組合の使命	深海信彦	23
『やさしいかたな』改訂版発行に向けて		25
■ 登録証問題を考える（事例④③～④⑤）	登録証問題研究会	26
■ 第36回通常総会		28
議事		28
令和4年度事業報告		28
令和5年度事業計画		31
■ 令和5年度役員・委員会		33
■ 令和4年度組合活動の記録（令和4年4月1日～令和5年3月31日）		34

刀剣社会における刀剣商の役割

全国刀剣商業協同組合 理事長 深 海 信 彦

刀剣を取り巻くさまざまな立場の人の集合体として刀剣社会というものが存在し、刀剣商はその重要な成員でもある。この社会は恒常的な結び付きによってある程度統一された形態であり、そこには共通の目的に対する役割分担と規範があり、特定の法律を持ち出すことなく、ほとんどは不文律によって成り立っている社会組織と言い得る。

それ故に、本来ならばこの社会の中心には、刀剣を趣味として購入し愛好する愛刀家が座るべきではあるが、愛刀家は常に自由であり制約のある集団には属さず、従って刀剣のムラ社会にのみ通用する慣例や不文律の埒の外にあり、ここで言う刀剣社会を構成する一員とは言い難いものがある。何となれば、愛刀家は自分自身の趣味の目的を達成するために刀剣の有用性を認めているのであって、どのような組織も必要ないからである。自分の本業は別にあり、そして別の重要な組織に属している場合が多い。

このように広義での刀剣社会の主役を除いた、狭義に限定された刀剣社会とは一体、どのようなものであろうか。それは、一口で言えば、刀剣に携わることから「逃げられない人」の組織化されていない自然集合体とも言うべきものであろう。互いは自由でありながら有機的な結び付きがあり、暗黙のルールに従って成り立っているものではあるが、個人の信用と技量が絶対条件となることは言うまでもない。

ここで言う「逃げられない人」というのは「逃げたくない人」という意味でもある。刀剣に携わる以外は我が身を生かす道なしと決意した人たちによって形成された狭義の刀剣社会は、刀匠、研師、鞘師、白銀師、塗師、金工等の刀職関係者と、刀剣調査、鑑定に等に従事する研究家、そして刀剣商等によって成り立っている。これら刀剣に携わる人たちには規模の差こそあれ、部分組織に属してきた歴史がある。しかし、組織から生活を保障されているのは団体などに属する研究員、職員のみで、それ以外の人たちは当然ではあるが自ら稼ぎ出したものによって生計を立てている。従って所属する組織や、刀剣社会が如何様に変化しても、自力に頼る生活は変わらないのである。この刀剣社会に永続性のある組織がなかなか根付かないのは、このように、組織が個人の生活の向上にまで資する手立てを見いだせなかったからであろう。

全国刀剣商業協同組合はそのような永遠の難問に立ち向かうべく、昭和 62 年 9 月に創設され、今年で 37 年を迎える。刀剣社会の一部を形成する刀剣組合は、37 年間のうちに少なからぬ変遷を経てはきたが、定点からの長期的な観察が不可能であるが故に、その変化、変容に気付く人は多くはない。

どの時代においても、今を生きる人は今しか知らない。過去のことを話で聞くことはできたとしても、果たしてその過去を語る人が本当のことをどこまで知っているかは疑問である。辿ってきた道は、その本人にしかわからない。自転車のペダルが少し重く感じてそのまま漕ぎ続け、ふと止まって振り返ると長い緩やかな坂道を上ってきたことがわかるように。発展途上国や専制国家の中には、新世代が育つほぼ 20 年毎に改革を唱えて独立紛争や内乱が起きるといふ。今を生きる人は今しかわからないからである。刀剣社会を構成する主要な一員である刀剣商も、既に 20 年以上前のことを経験していない人が多く活躍しており、彼らは現在の状況を当然のように享受している。

刀剣社会いわゆる刀剣界の中で、刀職者のグループもそして刀剣の調査、審査、保存活動を行う団体、法人も幾多の改革を遂げてはきたが、刀剣社会に最も変革を促したのは刀剣組合であろう。この刀剣組合も他社会、他業種同様に、内部にさまざまな事情や立場の違いを内包してはいるが、共通の目的に向かって一定の規範が保たれ、その上に絶対的な不文律が存在しており、業界で長らく主導的な立場を貫いてきた人の支持を得ながら安定が図られている。全国中小企業団体中央会傘下の組合の中で、長年にわたり、これほどまでに離合集散なく運営されてきた組合は例が少ないという。商売至上の業界にあって、商売とは無縁の組合運営が継続されてきたのは、組合の長い歴史を俯瞰し得る経験豊富な実力者の大所高所からの監理、指導があったからに他ならない。論を異にする状況にあっても、業界、組合の総合的な発展のため、大同につく器量の持ち主の存在の大きさは、時間の経過とともにその重みを増すのである。組合の運営・執行に当たる者は常にこのことを肝に銘じるべきであろう。

さて、37 年にわたる刀剣社会における組合の役割とその成果は如何なものであろうか。業界の組織化によって一体何が得られ、どのような変革を果たしたのであろうか。そのことについて数字で示すことは不可能ではあるが、漕いできたペダルを休めて後ろを振り返ってみると、長く漕いできたほど緩やかではあるが、勾配の度合いと長さがわかる。それは、途中ではほとんど気付かない平坦に近い坂道であったかもしれない。その、ほとんど気付かないくらいの緩やかな上り坂こそ、刀剣業界の一般社会における認知度の上昇線であろう。刀剣に対する認知度や理解度が上がれば、刀剣そのものに対する価値観や

認識が高まり、ひいてはこれを調査・研究・鑑定・保存・振興に当たる人の重要度と評価は高まる。

組合は、長い時間をかけて刀剣商の社会的地位の向上に務めてきた。このことは刀剣商のみがなし得ることであり、研究家や刀職者が能動的になせるものではない。世間の目に常に晒されている刀剣商なればこそ出来得ることではあるが、逆にその地位を貶めることになるのもまた、刀剣商の行動である。刀剣商は刀剣業界のみならず、刀剣社会全体の地位向上と浮沈の鍵を握っており、長年にわたって築いた信用を守り抜く使命を帯びていると言い得よう。

組合員の減少を言う人がいるが、それは公益法人等の刀剣団体の会員数の減少、あるいは解散、それに人口減等を勘案すれば、最大人数の10%前後減の組合員数は相対的には減少とは言えない。数のみを頼りにして質の問題を等閑に付すきらいもあるが、社会的信用を保つためには組合員の質は維持しなくてはならない。しかし、排他的になってはならない。組織が安定して信用力が向上するにつれ、自分もその一員となって自らの信用を高め、利益に繋げたいという刀剣商人は、今後も後を絶たないであろう。そのような人に組合の信用を損なうような行為をしてほしくないと思うのは既得者の共通の主張ではあるが、彼らのレベルを引き上げ同化させる程の力量と団結力がないことには、今後起こり得る諸問題に対処できないであろう。何となれば、組合はあくまでも平等の原則を貫き、相互扶助に徹しなければならないからである。この大前提のもとに発展を遂げることが可能であれば、刀剣商の認知度、ひいては社会的地位も向上し、やがては生活の向上に繋がるのである。

刀剣業界、刀剣組合の内にいる人は自らの地位の向上に気付いてはいないが、外部から業界・組合を眺めている人は、肌身を感じているはずである。幸い、業界の実力者の無言の援護を得て、刀剣社会はここまで成熟の道のりを進んでいる。何かをきっかけに、業界の中にいる人も自らの地位に気付く日が来るのではないか。長い坂道を振り返って実感する日が来るのではないか。それを確かなものにするために、刀剣商だけのためではなく、刀剣社会全体の向上に向けて弛まぬ努力を続けることである。そうすることによって刀剣社会における刀剣組合、そして個々の刀剣商の信頼も高まり究極には収入の上昇に繋がるものである。

組合運営に携わる理事の無給無報酬の奉仕の継続は、確かに厳しい。しかし、誰かがやらなければならないことである。ペダルは漕ぎ続けなければならない。漕げる人が漕ぐ。速度ではなく続けることで、刀剣社会はさらに変わりゆく。長い坂道の頂上に立ち止まり、辿ってきた大いなる軌跡を振り返ってみたいものである。

再開発

副理事長

伊 波 賢 一

街が変わった。学生の頃よく歩いた渋谷、オフィスビルの立ち並ぶ大手町、ホテルや大型書店のある東京駅八重洲口、そして地元・虎ノ門…。バブル期の「地上げ」と違い、今は「再開発」と聞こえの良いシステムが進む。

『日本経済新聞』6月11日の日曜“The STYLE”12面、文化時評『「神宮外苑」は誰のものか』が目に残る。「不思議な場所である。東京の明治神宮外苑は神社の一部なのに、まるで神社らしくない」で始まる文章は、明治天皇を偲ぶ絵画館と4列イチョウ並木のメモリアルパークに「歴史の文脈から離れて」巨大な新国立競技場が現れ、4年経つと都が緩和していた高さ制限は、それまでの序章のごとく再開発の道を開いた。国民に愛された公共的私有地に必要な対話はすれ違ったまま「既成事実化がどんどん進む」。そして、その先のプランもほとんど知られて

いないまま「ここは誰のものなのだろう」で終わっている。(論説委員会「春秋」担当・大島三緒氏より引用)

新年度をスタートした全刀商組合はコロナ禍をやり過ごし、活動も平常時に戻りつつある。交換会の集中化、公共機関を経由した買入れや査定への推進、刀剣評価鑑定士認定の再開など、社会的地位・信頼度の向上とともに運営面で成果を出している。これは理事会での問題提起、対策案の入念な協議、確実な実行が限られた環境の中で功を奏して、設立から30年を超えた組合組織は、正しく再開発されていると思う。初めての取り組みには、当然、躊躇する意見が出ることもある。しかし、互いを尊重し、時間をかけて多くの組合員に有効な答えを導き出しているだろう。これからも組合の発展に寄与できたらと思う。

これからの刀剣業界について

副理事長

土 肥 豊 久

刀剣に携わっている業者の美術業界での地位は、年々上昇しているように感じます。

武器で危なくて怖いものは持たないでくださいと、女性の方から嫌われてきましたが、近年、刀剣女子を中心に刀は素敵なもの、優れたものと再認識されてきています。

それに、歴史的にも精神的にも自分の命である刀に対する憧れも理解してもらえれば、もっともっと刀剣に対する愛が深まると思います。

美術業界全体のことも少し触れたいと思います。

今、家を建てる時、日本間・茶室は田舎でもほとんどが作らなくなってきました。古美術商というのは、日本間に置く掛軸・置物・花台・花瓶・扁額・茶簾笥・和机・茶道具などを扱っている商売ですから、それがなくなるとことは売上が少なくなるということです。

表具屋や畳屋などもだんだん数が少なくなっています。当地長岡でも40年前は30店舗ほどあった古美術商ですが、10店舗ぐらいになっています。しか

し、刀剣を扱っている店では、愛刀家の数は少ないながら根強く、売り上げもあまり変わらず、むしろ上向いているようです。

コロナがようやく落ち着いてきて、来日の外国人に対する規制もなくなってきました。観光業・飲食業を中心に顧客が戻りつつあり、ホテルなどの価格も上昇しているようです。

円安で3割ぐらいは安く買えるわけですから、さまざまなものが売れると思われますが、美術品はなかなか思うように売れていないようです。

ただ、長い目で見れば、刀剣・刀装・刀装具・武具・甲冑など、世界に類のない美術工芸品は必ず評価され、価格も上がってくると思います。

お金と時間をかけて製作された優れた品物を、われわれ刀剣商がさらに高い見識を持って広めていき、「日本男児は日本刀一振ぐらい持っていないとね」と言われるような世の中にしたいと考えています。

組織の力

副理事長
服部 暁治

われわれ刀剣商は、基本的に個人営業ビジネスと認識します。近年、法人化している刀剣商も多くなりましたが、企業体組織と言うより同族経営的色彩が濃いように思われます

I T時代の申し子のようなウーバーイーツの配達員の交通事故のニュースで、ウーバー本部が配達員に労災補償をしない理由に、配達員が「個人事業主」であることを挙げていました。自分自身も個人事業主なので看過できず、注目しました。結果、組織に属さない者の立場の弱さが露呈し、社会的にも問題視されました。

非力ながら、個人事業の面白さもあります。企画立案、発注仕入れ、販売営業、宣伝広告、採用人事(バイトですけれど)、在庫管理そして申告納税まで自分自身で一気通貫ですから。

刀剣商になって間もないころ、刀剣商組合設立の話を聞き、誘われるままにその“渦中”に巻き込まれていったように記憶します。やはりその頃から「個

人事業主」であるがゆえに、なおさら組織に属しているという安心感を得たいという思いがありました。

組合とは、寄らば大樹の陰、後ろ盾、核の傘…といったように、受動的に身を置く参加だけでなく、組合員自身が能動的・積極的に関わってこそ、組織として強固になっていくようです。

全国刀剣商業協同組合は法人なので、生き物のように前進・後退・上昇・下降・旋回・蛇行を繰り返しながら、設立37年を経て、刀剣業界に根を張り巡らしてきているようです。特に対外的な面では、諸官庁・諸法人・諸団体など多方面との会談・会合を持ち、意見交換や協同事業、要望・要請など、業界発展のため、組合員の地位向上のために多くの時間を割いています。

自分自身が組合組織に関わって、特に近年、組合組織の信用力の大きさ、個々人では到底到達できない領域にまで歩んできていることを痛感している次第です。

組合事業について

専務理事
清水 儀孝

第36回通常総会が去る5月17日に開催され、組合員の皆さまのご理解ご協力の下で、つつがなく終わることができました。新理事長には深海信彦さんが互選され、新たに37期がスタートしました。

2020年以来、新型コロナウイルスの感染拡大で組合運営全般に支障を来してきましたが、令和5年5月にコロナウイルスが5類に変わり、世の中の動きが活発になってきました。このような状況の中、組合活動も活発に動き出せるようになると思います。

令和5年度の事業運営は、次に掲げるように、主に経済委員会の事業になります。

- ①年2回の交換会開催
- ②「大刀剣市」の開催
- ③資格認定事業の資格取得者の拡大継続と、一般を対象とする刀剣検定の準備
- ④『やさしいかたな』改訂に向けての準備と各機関への監修依頼
- ⑤『刀剣界』『全刀商』の発行
- ⑥共同購買事業—評価鑑定と買い取り

以上に関して、

- ①市場運営は深海理事長の英断で年におおむね2回の開催となりましたが、実績を挙げており、今後も引き続き行います。
- ②昨年の大刀剣市は3年ぶりの開催で、コロナ禍の下でさまざま規制もありましたが、本年は一層充実した内容で開催する予定です。
- ③資格認定事業もコロナ禍で支障を来しましたが、今期からは組合員の取得増強を図るとともに、一般向けにも事業の展開を図るべく準備を進めます。
- ④『やさしいかたな』を全面改訂し、組合員・賛助会員の皆さんが、従来以上に有効活用できる冊子を目指します。
- ⑤『刀剣界』『全刀商』はホームページと併せ、組合の広報・情報発信機能の一層の充実を図ります。
- ⑥共同購買事業は、何よりも組合の屋台骨になる事業です。ホームページを一新して公的機関等

からの評価査定依頼や買い取り依頼の充実を目指します。

コロナ後の組合事業は山積しています。私たち組合の理念である、社会的地位向上と経済的向上を目指し、深海理事長のリーダーシップの下、執行部と組合員が一体になり、全ての事業に取り組んでまい

ります。深いご理解をいただきますよう、心からお願いします。

<追記> 事務局の有山智和子さんと濱崎道代さんがこの6月をもって退職されました。有山さんは23年間、濱崎さんは10年間、組合の事務局を長い間支えていただきました。ありがとうございました。

温故知新 —『戦後日本刀事件史』を読む—

常務理事

嶋田 伸夫

海外の知人から「良い刀を入手した。写真を送るので見てもらいたい」と依頼がありました。送られてきた写真は、特別貴重刀剣の認定書が付いた刀です。(公財)日本美術刀剣保存協会(以下、日刀保)に確認すると、確かに籍があるものでした。しかし、写真で見ても、茎の銘文は明らかに偽銘とわかるものでした。

昭和50年代の一時期、当時の機関の鑑定システムの歪みから審査が正確に行われず、偽銘のものにも認定書が発行されていたことを丁寧に伝え、厳格に行われている現在の日刀保の審査しか知らない友人は、私の話をしばらく信じるができなかったようです。

このように、何も知らずに過去の認定書を頼りに刀剣を購入する愛刀家がまだまだ多くいます。

日本は、昭和20年に太平洋戦争の敗戦国となりました。その結果、日本刀は武器として戦勝国のターゲットとなり、多くの刀剣類が没収され、いまだに行方がわからない文化財もあります。

本書には「行方不明の国宝・重要文化財」として詳しく記載されています。

当時、刀剣に携わる人々は、連合国軍が行う刀狩りから日本刀類を守り、日本人の宝として保存継承していくために命がけで多方面に働きかけました。

その結果、今日、私たちは合法的に日本刀を所持し、売買することができるようになり、生計を立て、「刀剣商」という単独の職種として認められることとなり、社会的地位も向上しました。戦後の日本刀史を知らずに「刀剣商」でございますとは、これいかにです。

順風満帆で来たわけでない戦後の刀剣社会を、おぼろげながら知ってはいましたが、本年出版された『戦後日本刀事件史』で深く知ることができました。

刀剣に関わる過去の出来事を学ぶことで、一層の業界発展にもつながり、負の部分においては再発を防止することにもつながります。新しい知識を取り入れることで、自身の能力やスキルを磨くことができます。愛刀家の方々も、引き継ぐ子孫へ自身が所有する刀剣類が、奇跡の積み重ねの下に、今日わが家にあることを語り継ぐことができるでしょう。

本書は、戦後の刀剣業界の出来事について、長年の取材と資料の収集を積み重ね、また関係者の話を直に聞き、活字として残すべく満を持して出版されたものです。

お客さまから質問や問い合わせに対して的確に返答できるように、組合員の皆さまも一度は読んでいただき、お役に立てていただきたいと思います。

友人の進んできた道、僕の選んだ道

常務理事

綱取 譲一

私たち組合員の中に古いものが嫌いだという者は一人もいない。しかし、僕は若いころ、新しいものを生み出すクリエイターたちに対し気後れした話を今日はしたい。

これを思い出すきっかけは、昨年の『刀剣界』の編集会議の後だったろうか、有志でオータニの上の

階で夕食を取った。僕たちの席の前は渋滞の首都高を挟み、K建設の本社がよく見えた。友人のS君がここに勤めている。夜の帳が下りようとしていたが、彼のいる建築設計部はまだ煌々と灯りがともっている。

S君の母校は、大久保の組合事務局の玄関を出る

と正面に見える難関受験のW大理工学部。勤め始めたばかりの頃S君は、アンビルドだがゴルフ場に巨大な折りたたみ傘を雨天時にかけるアイデアで、設計コンペにおいて賞を取った。時を同じくして女性雑誌にも彼が顔写真付きで大きく紹介され、僕たち飲み仲間は大いに沸いた。賞金の一部は会社から本人にも還元され、それは彼の週末の相棒となるドイツ製オートバイの頭金になった。

結婚し所帯を持った彼は、ある日、僕と家内を自宅に招いてくれた。同席の方々はW大理工学部OB。大手ゼネコンや著名設計事務所で活躍し始めていた。

あっという間になくなるS君の手作りビザや、美しい奥さまの手料理、皆に愛嬌を振りまく小さな長女のカオリちゃん。当時の緑色のクレジットカードのCMのコピー「職業、アーキテクト。恋人は妻。週末は少年になる」―これはS君をモデルにしているのかなと思っていた。

さて翌日、僕は埼玉県の甲冑コレクターのMさん宅に納品で訪れていた。Mさんはお勤めの銀行の合併に伴い、地方支店長から本店の福利厚生施設長に収まっていた。

「Mさん、僕、何だか昨日、みじめでしたよ。友人宅に集まった皆さんはエリートたちばかりで、刀だの、鎧だの、非生産的なのは僕だけなんですよ」

Mさんは即座にこう言った。

「綱収君、それは違うぞ！ そんな奴らはなあ、定年になったらお払い箱だ。その後に何も残らん。

会社は彼らを歯車の一つとも思わんのだ。その点、君の仕事は何歳になってもできるし、年を重ねるたびに実を結ぶことがたくさんあるじゃないか！」

「てっ、定年って何年先の話をするんですか……」

それから20年後、50歳が近い僕は日々がいていた。名刺の肩書に何が付くでもなく。そのころS君の美しい奥さまは、覚悟をしなくてはいけないような病魔に襲われつつあった。またMさんも再発性の重い病気を抱えていたが、あの日の会話をよく覚えていた。

「W大理工学部のOBさんたちも定年が視野に入ってくる10年後、僕はどうなっているでしょうね。また、この話を蒸し返しますからね。その時まで元気でいてくださいね」

この言葉に返事をせず笑っていたMさんだが、その時を待たず鬼籍に入った。Mさんは他にも僕の心に響く言葉を残している。

一方、S君は職場で重要なポストに居続ける。奥さまと死別した彼は、カオリちゃんが社会人になるまで2人でお弁当を作り続けた。そのカオリちゃんは現在、お母さんに負けない美しい女性に育ち、良いご縁があってもおかしくない。米寿になった自分の義母に週何度か食事を作る僕にとっては、そんなS君は相変わらずヒーローであり続けている。あの日、建築コンペで賞をとった時のまま。

ところで、全国刀剣商業協同組合常務理事って肩書なのかな？

最近ふと思ったこと

理 事 赤 萩 稔

「刀剣女子」というワードを初めて聞いてから、どのぐらいたつてあろうか。

先日、古河歴史博物館の「かえってきた堀川國廣」展を見に行き、ふと感じた。

当日、男3人連れで行ったのだが、私たち以外の男性入館者は1人、ほかは全員女性であった。

ウィークデーの午後ということもあり、満員ではなかったが、それなりの人で賑わっていた。帰り際、係員に聞いたら、週末は大盛況で、入場待ちもあるという。九州・四国方面からもわざわざ来るらしい。

係員いわく、「熱気がすごい！」

「刀剣乱舞-ONLINE」とのコラボレーションも

あって、盛り上がりには拍車がかかり、さまざまな関連グッズもほとんど売り切れ状態だという。ビックリである。

当初、刀剣女子ブームは一過性のものだろうと思われていたが、現在も衰えるどころか、深くかつ広く波及していると言われる。

私見ながら、日本刀の物語性、神秘性、ファンタスティックな側面に興味を示すのだろう、と勝手に推測する。

刀剣商側から見れば、購入する気もそれほどないだろうし、失礼ながら購買力もないと思われる。故に、これまで刀剣女子にはほとんど関心を示してこなかった。

しかし、刀剣界全体から見れば、刀剣類に対しての啓発・理解・普及、どれをとっても彼女たちの存在はありがたいし、非常にいいことだと思う。

今後、組合が展開する予定の一般向け刀剣検定事

業に際しては、刀剣女子には積極的にチャレンジしてほしいし、これからも健全な和の広がりを願っているところである。

変化の中の刀剣界

理事
飯田 慶雄

新型コロナウイルス感染症の危機が収まり、遅ればせながら日本でも流行前の日常に戻りつつあるようです。繁華街は人であふれ、飲食店は一転して予約が取れないほどの活況を呈しています。世界で金利上昇が騒がれる中、一線を画して低金利が続く日本との金利差に、ドルは再び140円を突破、観光客は大挙して日本を訪れ、多くの国内企業は資源高・エネルギー高をものともせず最高益を更新、株価は3万円を越えてまだまだ上昇の勢いは衰えません。

ウクライナ情勢にはまだ光明が見えませんが、波乱含みの海外に比べ、おおむね日本経済の先行きは明るい見通しと言える状況にあるようです。

一方、われわれ美術業界の現状はどうでしょうか。昨年度は久しぶりに「大刀剣市」が開催され、アメリカやヨーロッパをはじめアジア圏からも馴染みの顔が多数見えました。同時期にアメリカでSword Showが開催され、クリスティーズ・ニューヨークでは山形の蟹仙洞美術館の所蔵刀が出品され、長曾祢氏徹の刀が\$239,400、当時の為替換算で3,400万円を超える金額で落札されるなど、国内外で活発に刀剣・古美術が売買されているようです。

刀剣を扱った展覧会も多数開催され、その多くが

来館者目標を大幅に超え、図録も増刷がかかるなどの好結果となり、変わらず多くの方々に愛好していただけていることは、わが業界にとって何物にも勝る吉報であると思います。

組合活動においては、大刀剣市も事故なく無事に閉幕し、組合買い入れ品が多数出品された交換会も目標額を達成、組合の評価、認知度も順調に向上し、公的団体からの買い入れや評価依頼も増えてきました。組合の活動が同業のみならず一般社会でも評価されることは、必ずや私たち刀剣商の地位向上に寄与することと信じます。

流通量の減少による交換会出来高の大幅な減少という苦しい変化を何とか乗り越え、組合は体力を高めつつありますが、ここまで発展することができたのは、われわれとともに働いてくれた二人の事務員、有山智和子さんと濱崎道代さんの存在なくしてはあり得ません。この度退職することとなりましたが、長く組合活動に寄与して下さったお二人に紙面を借りて感謝申し上げます。

今年度も新しいメンバーとともに刀剣界に益する組合活動に取り組んでいきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

活動に向けて

理事
大平 岳子

新型コロナ感染症の5類移行に伴い、コロナが完全に終息した訳ではないですが、いろいろな規制が緩和されて、全刀商の活動も活発に行われていくものと思われます。

新大久保にある組合事務所も改装され、また長年勤務して下さった職員2名に代わって新規2名が決まり、これからの組合活動を支えてくれるものと期待しています。

組合活動はこれからさらに多岐にわたると思いますが、年2回の交換会の開催、「大刀剣市」や共同

購買事業、さらにコロナ禍で中断されていた刀剣評価鑑定士の資格認定事業の推進、さらには『やさしいかな』の改訂などに向けて、微力ながらお役に立てればと思っております。

何を行っていくにしても、ボランティア精神なしでは行動できないのが現状で、皆さまのご協力、ご理解をお願いしたいと思います。また、インボイス制度がいよいよ今年10月からスタートとなり、諸問題への対応が懸念されますが、より良い方向へ進んでいくことを願うばかりです。

組合と業界の今後

理事
生野 正

われわれの全国刀剣商業協同組合は、全国に数ある一般の組合とは一線を画す、政府認可の組合です。私は今期2年間、理事を務めさせていただくことになりました。組合活動のお手伝いをさせていただけますことを誇りに思い、がんばってまいります。

さて、この場では、組合について、いくつか私の考えを述べさせていただきます。

まず、先の総会では理事の年齢制限について議論が交わされました。近年は平均寿命が延び、企業も国も定年年齢を引き上げようとしています。この機運はわれわれにも当てはまることです。組合の先輩方には経験という大きな実力が備わっています。若い人たちには若い人にしかない力があることも確かです。もちろん、世代引き継ぎは重要課題です。

日本の中小企業はどれも後継者問題で悩んでいますが、刀剣業界では幸いなことに優秀な若い世代が後継者として活躍しており、この業界の展望は明るいと言えます。若い人たちは先輩方から多くを学び、来る時に引き継ぎをすればよいと私は思います。

今は組合員みんなが協力連携し、業界全体の発展を目指して改革していくことが重要だと思います。

組合は長年にわたり『刀剣界』新聞を定期発刊してきました。私は、新聞による広報活動はぜひとも必要と考えています。本紙は、刀剣に関する最新情報や知識、また古物営業法と銃刀法に関わる登録か

ら販売までの法律や規制を、記事を通して周知してきました。この弛まない努力が実を結び、信用力が備わりつつあることは、皆さまにもご理解いただけると存じます。

われわれが古物商という肩書だけでなく、「刀剣商です」と胸を張って名乗れるようになったのも、これらの組合活動があったからこそです。

近年は資格社会です。どんな業種でも有資格者でないと、社会は認めてくれないという時代です。組合でも刀剣評価鑑定士資格認定事業を立ち上げ、既に多くの有資格者が誕生しています。まだ資格をお持ちでない組合員の方は、この資格を取得し、事業に生かすことをお勧めします。

われわれが商材として扱う日本刀は、わが国の文化と技術を今に伝える希有な美術品であり、それ故に世界中から高く評価されています。私たちはこれらを保護し、次代に引き継いでいかなくはなりません。

私は前理事就任時より、海外ディーラーのわが国市場への参入について明確に反対の意見を述べてきました。彼らが自由に刀剣市場に出入りすることで、われわれの富が流出することを容認してはなりません。組合は刀剣業界全体の発展と組合員の地位向上、将来にわたる業界の安定を目指していかねばなりません。

ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

愛刀家の裾野を広げたい

理事
瀬下 明

コロナ禍も収束し、われわれ刀剣業界も例外でなく、再び活気を取り戻しつつあります。特に海外の方の需要が高まりつつあります。

懸念されるのは、国内の将来です。昨今の刀剣展を見ると、いわゆる刀剣女子が列をなして見学に訪れているのに対して、“刀剣男士”の姿がほとんど見られないのです。

私が30代前半のころからずっとお取引を頂いている同世代のお客さまが何名かいらっしゃいます。高齢になり、コレクションをそろそろ息子さんに譲ろ

うかと思っても、「刀には興味がないから、今のうちに処分してほしい」と言われてしまうとのこと。そんな例が珍しくありません。

趣味が多様化する中で、若い愛刀家が育っていないのは、誠にゆゆしき事態です。何か対策を講じて、刀剣男士を迎え入れる準備をしたいものです。

時間はかかるかもしれませんが、愛刀家の裾野が広がれば、将来にわたって刀剣業界は安泰です。

組合の末永い発展を念じて、今期の理事の仕事を努めてまいります。

どうすれば

理事
松本 義行

刀剣商の置かれている状況は厳しい。愛刀家の高齢化と減少が進み、日本刀および刀装具の販売高が縮小している。どうすれば活気づくだろうか、刀が売れるようになるだろうかといつも考える。

「愛刀家が増える→刀がよく売れる→刀の値段が上がる→刀がよく売れる→愛刀家が増える→刀剣商が増える→刀がよく売れる」こんな循環をどうすれば作り出せるだろうか。

1つ、漢字検定ならぬ日本刀検定を作り、日本刀の学習意欲を喚起する。1つ、NHK-Eテレで日本刀講座を放送し、日本刀を広く学んでもらう。1つ、日本刀を世界文化遺産にして、日本刀を保護する。1つ、刀匠・研師・刀職の人間国宝を認定し、

日本刀の技能を伝承する。1つ、日本刀を日展（日本美術展覧会）に加え、日本刀の芸術性の理解を促す……。

こんなことが実現できたら、売買市場が膨らみ、刀剣商みんなが潤うはずだ。20数年勤めた金融サービス業から転身した13年前に思ったものだ。今回、理事に再任されて5期目になる。会社勤めで学んだ知見を組合に生かすことを期待されて選ばれたに違いない。しかし、自分はどんな務めを組合に果たしているであろうか。反省すべきことは多く、役に立っていない。今までを振り返り、これから2年、任期を終える時に自分で納得できるよう、務めを果たしたい。

若い力に期待する

理事
冥賀 吉也

現在、国内のさまざまな分野で高齢化が大きな問題になっている。「多くの山村では若者が都会に出て行き、残された村民は70歳を過ぎた老人ばかり」という話をよく耳にする。

その反面、行政が若者の住みやすい環境作りに手腕を発揮し、都会から戻ってきた若者と住民とが協力し合って地域を再生したという話は、NHKテレビの「いいいじゅうー!!」で時々紹介されている。

若者の存在とその活躍がいかに重要であるかを物語っている。

ところで、当組合の加盟者数もここ数年横ばい状態であり、高齢者の方も少なくない。今後、いかに若い組合員を迎えるかが大きな課題の一つであろう。

組合に入会を希望する方の目的は何か―。一つは、組合の絶対的信用度の高さであろう。全刀商は内閣総理大臣認可の協同組合であり、現組合員の信頼度は絶大なものだ。

二つ目は、組合主催の交換会参加、メンバーズ

カードや『刀剣界』新聞の無料購読、刀剣評価鑑定士を受験する資格等々が挙げられるが、魅力は何と言っても「大刀剣市」への出店参加資格ではないだろうか。

コロナ禍前の平成30年、令和元年に出店された73店舗は、実に組合員数の約45%に相当する。

大刀剣市は、今や国内はもとより、世界中の愛刀家が楽しみにしている世界一の展示会に成長した。

しかし、マンネリ化は最も危険だ。あらゆる角度から改良を重ね、常に進歩し続けなければならない。

世の中、目まぐるしいスピードで変化している。インターネットの普及とともに、新たな宣伝広告の方法、カタログの電子化等々迫られており、その対応には多くの分野で若者の力が必要だ。

幸い、全刀商には20～50代にかけて優秀な人材が数多くいることは心強い。大刀剣市実行委員会に積極的に参加してもらい、斬新な発想をもって世界一の大刀剣市を続けてもらいたい。

若者の力こそ、刀剣界発展の原動力と考える。

微力ですが

理事
持田 具宏

今期の理事にまた選出されました、持田具宏でございます。前回は申し上げましたが、小生の家にも事務所にもパーソナルコンピューターなるものではなく、いまだに平成と言うよりも昭和の生活なので、難しいことはできませんが、一所懸命に組合の仕事をやっていきたいと思っています。

今期の組合の仕事も、「大刀剣市」の実施日を従

来の3日間から2日間を試みたり、「刀剣評価鑑定士」の一般の方々に向けた問題作り、『やさしいかたな』の改訂など、ほかにも仕事があるんですが、肝の部分は幹部理事にお任せして、その下で懸命に働こうと思っています。

よろしくお願いいたします。

これからも

理事
吉井 唯夫

令和5年、ようようコロナが落ち着いてきました。今までの遅れを取り戻そうと、世界中の人々が動き出しています。

日本国内を見ると、6月に入り株価も上がり、景気の良かった時代に戻ったような値を付け、少しずつ景気が良くなる気配を感じています。

私たち全刀商は、美術の中でも、刀剣・武具類、それに携わる職人さんたちなどに特化した団体です。それでも、作品の歴史と使われている技は多岐にわたり、他の美術品には負けてはいません。その保存のために、全刀商の存在意義があります。

昨年久しぶりに開かれた「大刀剣市」は、以前ほどではないにしろ、たくさんの方に来場いただきました。そのお好き者さんたちを満足させるため

だけでなく、今あらためて進めている事業として、『やさしいかたな』の改訂があります。

個人の家に眠っている刀剣が、まだ数多くあり、都市部では毎月、登録審査が行われています。どのようにしたら刀剣を持てるのか？ その初歩の初歩からを、わかり易く手引きしています。錆びてどうしようもない刀があるのも事実です。今まで所在のわからなかった名刀もありました。今はネットで、いろいろ情報を検索できますが、やはりまだ個人の刀屋さんには入りづらいとの声を聞きます。相談できる全国組織の団体、それが全刀商です。各地に組合員がおり、すぐに対応できる良さがあります。

その一員として、刀剣・武具類を次世代へつなぐため、これからも活動していきたいと思います。

第1回「令和の名刀・名工展」は4名が大賞受賞

公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)と全日本刀匠会(宮入恵会長)の主催する第1回「令和の名刀・名工展」は5月18日からの3日間、刀剣博物館において部門別審査が行われ、入賞・入選が決まった(結果は17ページに)。

表彰式は8月5日、第一ホテル両国を会場に举行された。来賓として、「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」事務局長の山田宏参議院議員、文化庁文化財鑑査官の奥健夫氏、備前長船刀剣博物館館長の若松孝史氏、林原美術館事務長の横山拓二氏が臨席され、当組合からは深海信彦理事長が出席した。作品の展示は刀剣博物館が8月6日から9月4日まで、その後、岡山の備前長船刀剣博物館と林原美術館に会場を移して、9月30日から11月27日まで行われる。

本紙では4名の大賞受賞者について、「受賞の言葉」を掲載し、その経歴を紹介した。

作刀の部 久保 善博

本日は、私たち刀職者のためにこのような盛大な表彰式を開催していただきましたこと、受賞者を代表して感謝申し上げます。

また、「令和の名刀・名工展」開催に当たり、ご支援ご協力を賜りました「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」の先生方、そして文化庁をはじめ関係機関各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

日本刀千年の歴史において、古刀、新刀、新々刀に続き、明治以降を現代刀と分類しますが、実質的には戦後の77年が今日につながる美術刀剣の歩みと言ってもよいと思います。



第1回「令和の名刀・名工展」の表彰式風景
(撮影/トム岸田)

戦後の刀の作れない苦難の時期を乗り越え、昭和・平成と、永い間、日本美術刀剣保存協会主催の「新作名刀展」が、日本刀に携わる職人の技を支えてきました。近年では、全日本刀匠会の「お守り刀展」や、日本刀文化振興協会の「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」等、特色のある展覧会が各地で開催されるようになり、刀職者の発表の場が増え、全国の方々に私たちの手仕事を見ていただけるようになりました。

そしてこの度、日本美術刀剣保存協会と全日本刀匠会の2団体共催で「令和の名刀・名工展」が開催されます。

本展覧会の最大の特徴は、無鑑査待遇がなく、30歳代の若手から80歳代のベテランまで一堂に会し、作者名を伏せて審査された点です。公募展に相応しい画期的な審査方法で、自信のある若手にとっては挑戦しがいのある魅力的な展覧会ですが、一方、ベテランには、出品に勇気の要る展覧会でもあります。

しかし、この審査方法が、戦後70年近く続く刀剣の展覧会に新しい風を吹き込んだのは間違いなく、本展覧会の価値をこの上なく高めています。正に、令和の時代に相応しい展覧会だと思います。今後、回を重ねるごとに出品者が増え、刀職者の技術の向上に多大なる貢献をすると信じています。

この記念すべき第1回展において、栄えある大賞を受賞できたことは、私にとって望外の喜びです。今後は、受賞を励みに、日本刀文化が千年後にも継承されていくよう、自らの技術を磨き、後継者をしっかりと育てていきたいと考えています。

最後になりますが、本展覧会の会場となります刀剣博物館、備前長船刀剣博物館、そして林原美術館の皆様には厚く御礼申し上げます。また、展覧会開催にご協力いただきました関係機関各位の皆様にあらためて御礼申し上げ、受賞者を代表しての御礼の言葉とさせていただきます。本日はありがとうございました。

(本稿には8月5日の授賞式において受賞者を代表して述べた謝辞を再録しました)

研磨の部 玉置 城二

研磨コンクールに初めて出品させていただいたの

が、弟子入り1年目の平成4年です。研磨歴は今年でちょうど30年になります。

当初はコンクールのためにと普段以上に時間をかけ、入念な研磨を行っていました。年々目も上がり、自分の中の研磨基準も高い設定へと変わり、気が付けば普段から入念な仕事を行い、そしていつの頃からかコンクールには特別な仕事ではなく、普段通りの仕事で臨むようになっていました。

この度開催された「令和の名刀・名工展」の出品刀は、月山貞伸刀匠の新作刀です。新作の研磨は生まれ立ての刀に命を入れる“開眼”のような感覚があり、私にとって最もやり甲斐のある仕事です。

刀匠による焼き入れ後、まだ地刃の見えないその刀身をムラなく研ぎ上げるのはもちろんのこと、各線や面、肉置きなど、刀の全てを決定づけるのが新作刀の研磨です。今後、一千年生き続けていくその刀が、生まれて初めて受ける研磨こそ、この後行われるであろうどの研磨よりも重要であると確信しています。

研師という職に就き30年の節目となるこの年に、普段通りの新作刀研磨を、大賞という最高の形で認めいただけたことを大変光栄に思います。

展覧会への出品を快くお許しくださった貞伸刀匠はじめ、今までご指導くださった先生方には心より感謝し、御礼を申し上げます。

.....

拵下地の部 久保 純一

この度は身に余る大賞を頂き、誠にありがとうございます。

私は18歳の春に一生の仕事を柄巻きと決心し、嬉しくて担任の先生に報告しました。すると開口一番、「そんなことでは生活ができません。親が泣くぞ。普通の会社員になれ」と反対されました。しかし、迷いはありませんでした。

その後、内弟子となり、修業を始めると、親方は柄巻きだけでなく拵全般を作る人でした。やり方を一度見せるだけで仕事をやらされ、上手にできないと「お前は手でしたのか、足でしたのか」と叱られたのをよく覚えています。住み込みで、朝から銭湯が閉まる夜の10時まで仕事をする毎日でした。

結局8年半お世話になり、親方の元を離れ、家に戻りましたが、刀装の仕事はなく、保育園の送迎バスの運転手をしていました。

2年ぐらい経った頃、福岡市に住む研師の藤本政嘉先生から声をかけていただき、仕事を頂くようになりました。この出会いがなければ刀装の仕事は辞

めていたと思います。

藤本先生からの仕事は柄巻き・鞘・鍔・鞘塗りに至るまで何でもさせていただき、おかげで刀装の仕事で生活ができるようになりました。藤本先生の勧めで平成5年、コンクールに初出品、柄前の部で努力賞を受賞。

藤本先生はお金がなくて困っている私に、縁頭・目貫などたくさんの小道具を提供してくださいました。今でも感謝しております。今までに刀剣関係の多くの大先輩からご指導を頂き、今日までやってることができました。

8年前に日頃お世話になっている刀剣商から「久保さん、これと同じ鞘ができますか」と言われて見せていただいたのが、重要刀装の縦篠刻黒漆塗菊唐草文蒔絵鞘打刀拵でした。

鞘には約1.5^{センチ}幅の縦刻みがあり、鯉口から鐙に向かって少しずつ細くなっていて、江戸時代の鞘師の技術に驚愕しました。詳細に観察したところ、鞘は漆を塗る前の鞘下地に刻みを入れていることがわかりました。正しい製作方法が伝承されておらず、いろいろな方法を試みましたが正確に刻むことができず、諦めていました。

しかし、どうしてもこの鞘を現代刀職展に出品したいとの思いで試行錯誤を繰り返した結果、この方法であればというやり方で試すと、どうにかきれいに刻むことができました。合計10本目でしたが、尋常ではない集中力が必要でした。

令和のコンクールでは2本目にして作り上げることができました。

日本刀とともに細く長く歩み続けた50年の記念になりました。心より感謝申し上げます。

.....

柄前の部 久保 謙太郎

この度は大賞を頂きまして誠にありがとうございます。

この世界ではまだまだ未熟者ですが、柄巻きを始めてもうすぐ12年が経ちます。

日本刀の拵のこととなると、手厳しい父親です。どれだけ時間をかけて一生懸命に巻いた柄でも出来が悪ければやり直し、3回も同じ柄をほどいた時は辞めたいと思うほどでした。けれどもその厳しさがあったからこそ、今回の大賞だと思っています。

昔に巻いた綺麗で美しい柄巻きを見る度に「どうしたら綺麗に巻けるのか。どうしたら緩まずに巻けるのか」答えのある宿題をもらったような気持ちで見えていました。

その答えをこの手で実現させようと柄を巻いていましたが、実用性を求めると美術性がなくなり、美術性を求めると実用性がなくなり、いろいろと考えさせられる日々でした。緩まずに美しさのある柄を巻くことが柄巻師の最低限の仕事であり、また最高の仕事だと思っています。特に「留め」で美しく柄糸をこなす技術は、容易なものではありません。

職方総覧の本を読んでいた時、「柄形、鮫皮張りなどの巻き下工作を入念にし、実戦にも耐え得る強度の巻きを紐に逆らわずに施すこと。このような巻きであれば品位は自と発するものです」との昔の柄巻師の言葉を見た時、なぜか柄を巻くときのヒント

を頂けたような気がしました。

今回の柄巻は極細の笹波糸(金茶色)を2本使用して巻き上げました。笹波糸は通常使用される常組糸とは違い、とても堅く巻きにくく、また極細糸のためつまんだ紐が開きやすく苦勞しました。中にはくすね以外の接着材を用いたり、つまんだところを糸で縫ったりされる方がいますが、私はくすねと巻く技術のみで巻き上げました。

1度目はうまくいかず、2回目でどうにか巻くことができました。苦勞して巻いた柄巻きなので、大賞を受賞できてとても嬉しかったです。今回の賞に満足することなく、これからも精進してまいります。

大賞受賞者の経歴

■久保善博(刀匠)

昭和40年 鹿児島県奄美大島生まれ
平成元年 千葉大学園芸学部農芸化学科大学院修了、吉原義人師に入門
6年 文化庁より作刀承認を受け独立、鳥根県仁多郡横田町へ移住
「新作名刀展」初出品、優秀賞・新人賞
7年 日刀保たたら村下養成員になる(平成13年まで)
10年 刀匠8人展・叢雲会を結成。東京・パリなどで展示会を開催(平成22年まで)
12年 日立金属冶金研究所客員研究員としてたたら製鉄と日本刀研究を開始
13年 広島県庄原市西城町に久保善博日本刀鍛錬道場を開く
17年 (社)日本鉄鋼協会誌『鉄と鋼』1月号にたたら製鉄について論文発表
18年 「新作名刀展」第二席・文化庁長官賞
19年 「新作名刀展」第一席・日本美術刀剣保存協会会長賞
「第2回お守り刀展覧会」第一席・岡山県知事賞
21年 「第4回お守り刀展覧会」第一席・岡山県知事賞
22年 「第5回お守り刀展覧会」審査員
24年 文化庁主催美術刀剣刀匠技術保存研修会の実技指導講師
「第3回新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」協会会長賞



久保善博

25年 金属歴史国際会議BUMA-Ⅷ(奈良)にてたたら製鉄について発表
「第8回お守り刀展覧会」審査員
26年 「第5回新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」協会会長賞
27年 「新作名刀展」第一席・高松宮記念賞
警視総監特別賞の短刀を謹作
28年 広島県無形文化財「日本刀製作技術」保持者に認定
29年 「現代刀職展」第一席・高松宮記念賞、無鑑査認定
30年 鹿児島市にて陶芸家の実姉と二人展「陶刀姉弟展」開催
「第13回お守り刀展覧会」駐日ポーランド共和国大使賞
令和元年 「平成の名刀・名工展」特別奨励賞
全日本刀匠会副会長就任

3年 「現代刀職展」審査員
「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」審査員
公益財団法人日本刀文化振興協会「日本刀名匠(作刀)」認定

連絡先 = 〒729-5722 広島県庄原市西城町大佐495

■玉置城二(研師)

昭和48年5月23日生まれ

平成4年より研磨に従事

伏見稲荷大社、北野天満宮、賀茂別雷神社(上賀茂神社)、石切劔箭神社、大覚寺、高台寺、本能寺、金剛寺等、各寺社所蔵刀剣の修復研磨

京都国立博物館、大阪歴史博物館、黒川古文化研究所、柏原美術館等、各館収蔵品の修復研磨

国宝「山鳥毛」、重要文化財「義元左文字」「骨喰藤四郎」等の全身押形採拓

連絡先 = 〒606-0024 京都市左京区岩倉花園町541-94

☎075-721-2735 <https://kyoto-katana.com/>



玉置城二

■久保純一(鞘師)

昭和30年 福岡県生まれ

48年 柄巻師松成栄勝に師事

56年 独立

平成5年～令和元年 「現代刀職展」(旧「刀剣研磨・外装技術発表会」)特賞2回、優秀賞19回、努力賞14回受賞

平成26年 「第9回お守り刀展覧会」外装の部特賞第1席・坂城町長賞

27年 「第10回お守り刀展覧会」外装の部特賞第1席・熊本県知事賞。特別賞・日立金属賞

令和元年 (公財)日本美術刀剣保存協会無鑑査認定

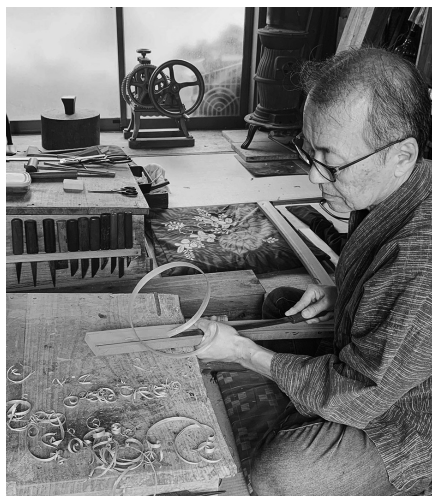
刀剣研磨・外装技術研修会講師

刀職技能訓練講習会講師

4年 現代刀職展審査員

連絡先 = 〒824-0049 福岡県行橋市福原202-3

☎0930-23-3896



久保純一

■久保謙太郎(柄巻師)

1992年 福岡県生まれ

2011年 鞘師久保純一(父)に師事

(公財)日本美術刀剣保存協会「現代刀職展」(旧「刀剣研磨・外装技術発表会」)柄前の部において特賞2回、優秀賞1回、努力賞5回受賞、刀装の部において特賞1回、優秀賞4回、努力賞3回受賞

連絡先 = 〒824-0049 福岡県行橋市福原202-3

☎080-3375-8159



久保謙太郎

【2022年現代刀職展・審査結果】

公益財団法人日本美術刀剣保存協会主催、2022年度「現代刀職展—今に伝わるいにしへの技」は、作刀・刀身彫・彫金の部および研磨・白鞘・刀装・柄前・白銀の部の審査がそれぞれ行われ、その結果がこのほど発表になった。

作品の展示は11月29日から12月29日まで刀剣博物館で行われ、表彰式はその初日に開催される。

■作刀・刀身彫・彫金の部

部門	賞	氏名
太刀・刀・脇指・薙刀・槍の部	高松宮記念賞	森國 利文
	薫山賞	木村 光宏
	寒山賞	高橋 祐哉
	日本美術刀剣保存協会会長賞	北川 哲士
	優秀賞一席	清水 達吉
	優秀賞二席	加藤 政也
	優秀賞三席	安藤 祐介
	優秀賞四席	小宮 治氣
	優秀賞五席	羽岡 慎仁
	努力賞一席	田中 諭
	努力賞二席	曾根 寛
	努力賞三席	富岡 慶一郎
	努力賞四席	古山 直樹
	入選一席	藤田 宗久
	入選二席	宮下 輝
	入選三席	工藤 芳洋
	入選四席	森 光秀
	入選五席	伊藤 重光
	入選六席	新名 公明
	入選七席	吉田 政也
	入選八席	太田 周作
短刀・剣の部	薫山賞	高橋 祐哉
	寒山賞	安藤 祐介
	優秀賞一席	木村 光宏
	優秀賞二席	新保 基治
	努力賞一席	渡辺 徹
	努力賞二席	工藤 芳洋
	努力賞三席	上畠 誠
	努力賞四席	伊藤 重光
	入選一席	高羽 弘宗
	入選二席	松川 隆
	入選三席	森 光秀
	入選四席	吉田 政也
	入選五席	佐々木 直彦
	入選六席	岡本 克博
彫金の部	薫山賞	柳川 清次
	優秀賞一席	福與 裕毅
	優秀賞二席	川島 義之
	優秀賞三席	阪井 淳
	努力賞一席	高橋 正樹
	努力賞二席	大川 千光
	努力賞三席	宮本 恒之
	努力賞四席	藤川 耕生
	努力賞五席	三角 恭兵
	努力賞六席	佐藤 周
	入選一席	前田 航汰
	入選二席	太佐 誠治

部門	賞	氏名
彫金の部	入選三席	福山 葵
	入選四席	山口 正興
	入選五席	中村 晋也
	入選六席	恩田 秀人
刀身彫の部	優秀賞	柏木 幸治

■研磨・白鞘・刀装・柄前・白銀の部

研磨鑄造の部	文部科学大臣賞	各務 弦太
	木屋賞	是澤 光昌
	竹屋賞	真津 仁彰
	千葉賞	松村 壮太郎
	薫山賞	森井 鐵太郎
	寒山賞	小川 和比古
	日本美術刀剣保存協会会長賞	諸富 剛
	優秀賞一席	柏木 良
	優秀賞二席	松尾 清健
	優秀賞三席	神山 貴恵
	優秀賞四席	細村 正勝
	優秀賞五席	玉置 城二
	優秀賞六席	福森 克一郎
	優秀賞七席	ヘンドリック・リンデラウフ
	優秀賞八席	井上 聡
	優秀賞九席	長岡 靖昌
	優秀賞十席	三浦 弘貴
	優秀賞十一席	平井 隆守
	努力賞一席	菊池 真修
	努力賞二席	川上 陽一郎
	努力賞三席	多田 芳徳
	努力賞四席	枝松 孝治
	努力賞五席	大門 健士郎
	努力賞六席	曾我 文麿
	努力賞七席	小宮 光敏
	努力賞八席	横山 智庸
	努力賞九席	柿沼 進一
	努力賞十席	細越 敬喜
	努力賞十一席	赤川 裕実
	努力賞十二席	相良 雄一
	入選一席	鈴木 勇
	入選二席	神 早紀
	入選三席	倉田 竜太郎
	入選四席	岩政 鋼輝
	入選五席	米川 好次
	入選六席	阿部 義貞
	入選七席	岡田 勝裕
	入選八席	和田 祥一
	入選九席	Martin Hornak
	入選十席	中本 淳一
	入選（以下入選は五十音順）	秋田 勇喜
	入選	大越 明友
	入選	大西 浩史
	入選	今野 勝也
	入選	酒井 完
	入選	坂上 梓
	入選	佐藤 秀明
	入選	田中 賢治郎
	入選	鶴田 一成
	入選	中北 孝文
	入選	根本 卓
	入選	脇田 聡一郎

部門	賞	氏名
研磨平造の部	寒山賞	玉置 城二
	日本美術刀剣保存協会会長賞	阿部 義貞
	優秀賞一席	森井 鐵太郎
	優秀賞二席	松尾 清健
	優秀賞三席	横山 智庸
	優秀賞四席	神山 貴恵
	努力賞一席	ヘンドリック・リンデラウフ
	努力賞二席	柏木 良
	努力賞三席	平井 隆守
	努力賞四席	曾我 文麿
	努力賞五席	是澤 光昌
	努力賞六席	岩政 鋼輝
	努力賞七席	多田 芳徳
	入選一席	長岡 靖昌
	入選二席	齋藤 秀夫
	入選三席	各務 弦太
	入選四席	中村 佳夫
	入選五席	堀 壯一郎
	入選六席	細越 敬喜
	入選七席	大門 健士郎
	入選八席	秋田 勇喜
	入選九席	栗崎 佳子
	入選十席	安井 隆之
	入選(以下入選は五十音順)	上條 徹
	入選	北脇 義晴
	入選	新谷 信幸
白鞘の部	優秀賞	橋本 幸律
	努力賞一席	千葉 正義
	努力賞二席	河合 広明
	努力賞三席	柿沼 進一
	努力賞四席	宮澤 則幸
	入選一席	千葉 俊和
	入選二席	三好 正和
	入選三席	野田 芳孝
	入選四席	今野 利幸
	入選五席	遠藤 鴻
刀装の部	入選六席	森井 敦央
	優秀賞	中屋 健二
	努力賞	泉本 哲弥
	入選一席	遠藤 鴻
	入選二席	平山 直弥
柄前の部	日本美術刀剣保存協会会長賞	久保 謙太郎
	優秀賞一席	松田 那由太
	優秀賞二席	橋本 幸律
	努力賞一席	山田 真也
	努力賞二席	小出 匡毅
	努力賞三席	矢倉 聡一
	努力賞四席	飯山 隆司
	入選一席	大槻 良一
	入選二席	小形 純子
	入選三席	中山 恒久
	入選四席	野田 芳孝
白銀の部	日本美術刀剣保存協会会長賞	三島 幹則
	努力賞一席	佐藤 周
	努力賞二席	武田 典明
	努力賞三席	上野 宏樹
	入選一席	中村 晋也
	入選二席	武藤 健
	入選三席	柿沼 進一
	入選四席	野田 芳孝

【「令和の名刀・名工展」受賞者】

■作刀の部

受賞	氏名	都道府県
大賞	久保 善博	広島県
準大賞一席	宗 正敏	福岡県
準大賞二席	高見 一良	兵庫県
準大賞三席	根津 啓	長野県
入賞一席	河内 一平	長野県
入賞二席	河内 道雄	奈良県
入賞三席	川崎 仁史	埼玉県
入選	赤松 伸咲	岡山県
入選	石田 智久	群馬県
入選	太田 周作	奈良県
入選	小澤 茂範	神奈川県
入選	月山 一郎	奈良県
入選	月山 清	奈良県
入選	上山 陽三	岡山県
入選	北川 哲士	滋賀県
入選	木村 光宏	熊本県
入選	興梠 宏明	大分県
入選	小宮早陽光	福岡県
入選	小宮 治氣	福岡県
入選	佐々木直彦	北海道
入選	新保 基治	新潟県
入選	新名 公明	大分県
入選	西村 淳	佐賀県
入選	藤原 俊和	奈良県
入選	松川 隆	長野県
入選	宮入 恵	長野県
入選	宮入 陽	長野県
入選	吉川 三男	東京都
入選	吉田 政也	岐阜県

■刀身彫の部

入賞	木下 宗憲	岡山県
----	-------	-----

■彫金の部

準大賞	川島 義之	静岡県
入選	泉 公士郎	東京都
入選	恩田 秀人	埼玉県
入選	片山 恒	岡山県
入選	川上 登	東京都
入選	武田 守夫	茨城県
入選	ブローデリック・ジェフ	東京都
入選	柳川 清次	千葉県

■研磨の部

大賞	玉置 城二	京都府
準大賞	阿部聡一郎	東京都
入賞一席	川上陽一郎	埼玉県
入賞二席	森井鐵太郎	埼玉県
入賞三席	松村壮太郎	千葉県
入賞四席	藤代 興里	東京都
入賞五席	横山 智庸	岡山県
入選	秋田 勇喜	神奈川県
入選	井上 聡	兵庫県
入選	小川和比古	千葉県
入選	柏木 良	鳥取県
入選	菊池 真修	岩手県
入選	小宮 光敏	福岡県

受賞	氏名	都道府県
入選	是澤 光昌	神奈川県
入選	相良 雄一	神奈川県
入選	藤代 龍哉	東京都
入選	松尾 清健	福岡県
入選	三浦 弘貴	宮城県
入選	水田 吉政	埼玉県
入選	和田 祥一	千葉県

■刀装・拵の部

準大賞一席	久保 純一	福岡県
準大賞二席	久保謙太郎	福岡県
入賞	森井 敦央	神奈川県
入選	山田 真也	岐阜県

■刀装・拵下地の部

大賞	久保 純一	福岡県
----	-------	-----

■刀装・鞘塗の部

受賞	氏名	都道府県
入賞	久保 純一	福岡県
入選	小山 光秀	新潟県

■柄前の部

大賞	久保謙太郎	福岡県
準大賞一席	山田 真也	岐阜県
準大賞二席	矢倉 聡一	神奈川県
入選	小出 匡毅	京都府
入選	橋本 幸律	岡山県
入選	平山 直弥	神奈川県

■白銀の部

入選	武藤 健	神奈川県
----	------	------

※入選は五十音順

「大刀剣市2022」3年ぶりで開催 東京美術倶楽部を会場に

全国刀剣商業協同組合の共同販売事業である「大刀剣市」は、去る11月18～20日の3日間、東京美術倶楽部を会場に3年ぶりで開催されました。

今から3年前に流行が始まった当時、新型コロナウイルスは“死に至る病”と恐れられていましたが、第7波の流行期も収束に向かう中、万全を期しての開催です。

初日のオープニング前には、うれしいことに1階入り口にお客さまの行列ができており、これから3日間の盛況を予告するかのようでした。まさしく好調な出だしとなり、大物が売れたとの噂が、会場を駆け巡ったりもしていました。

受付で販売していたカタログも好評で、中日には早くも完売。掲載された刀や刀装具もよく売れたそうです。

入場時、お客さまには検温と手指消毒を励行していただきましたが、立ち会っていた担当役員によると、「3日間で一番高かった方が37度2分」だったとか。「わざわざ足を運んでくれたお客さまに“お帰りください、なんていやだもんね”と言っていました。

ちなみに入場者数は、初日822人、2日目733人、3日目522人で、合計2077人。例年に比べると70～80%というところでしょうか。どうしても遠方からのお客さまの足は鈍く、最終日の悪天候も響いてしまいましたが、これはこれで立派な数字だと思います。

出店者とスタッフ全員の「大刀剣市が最後まで何

事もなく円滑に運営されますように」との思いが天に届いたようで、無事にフィナーレを迎えることができました。

今年の開催は十一月十七～十九日の三日間となりました。安心・安全で、一層活況を呈する大刀剣市になることを願っています。（持田具宏）

「大刀剣市2022」事前説明会開く

「大刀剣市2022」の開催に先立ち、10月19日、会場となる港区新橋の東京美術倶楽部において事前説明会を開催しました。

当組合が大刀剣市を開催する意義は、組合員の経済活動を促進して組合員および業界の経済的・社会的地位の向上を図るとともに、顧客に対するサービスの向上に努め、併せて事業を通してささやかながら社会貢献することにあります。



事前説明会で実行委員の説明に耳を傾ける出店者

次いで綱取実行委員長から、今回の説明会の概要と、出店者の会期中の昼食に関する説明がなされました。

最後に土肥副理事長の閉会の挨拶があり、内容のある約1時間の事前説明会を終えて、出店者それぞれが大刀剣市を成功させるべく胸に誓い、散会しました。(清水儀孝)



お客さまと歓談する美濃部さん

伝いで参加させていただいていました。

ディスプレイに関しても、一から作り上げるつもりは毛頭なく、まずは同じ感じ、真似できるところはできるだけ真似をして…のつもりでやっていたはずですが、現実にはバタバタでした。思うに、以前は

師匠に言われたことだけやっていれば良かったのが、今回は自分で考えて自分で決断して自分で行動して…と、自分で全部やらなければいけない。別段長考するわけでもないし、大した決断でもないのですが、気付くと結構な時間が過ぎていて、かなりのエネルギーが持っていかれていました。

バタバタなんだけど楽しい。充実している。あの大刀剣市に出店するんだ、しているんだと思うと楽しくて嬉しくてしょうがない。師匠の出店を手伝いながら、自分で大刀剣市に出店するまでと言って手伝わせていただいていたが、とうとうこの時が来たんだ！と長年の夢をかなえました。

売上は出店料と人件費が何とか賄える程度でしたが、次の目標①500万円を売り上げる、②重要刀剣を扱う、③一文字を扱う、を目指してがんばります！
(一文字堂・美濃部政人)

出店者から②

大刀剣市初出店を終えて

かたなはこし
刀箱師として刀の展示ケースを製作している中村圭佑と申します。この度、大刀剣市に初出店させていただきました。

出店に当たり、多くの刀剣店の皆さまからご指導ご鞭撻を賜り、やり遂げることができました。誠にありがとうございます。

大刀剣市出店は、私が刀箱師として活動をスタートした4年前からずっと目標にしてきたことであり、今回貴重なチャンスを頂けましたこと心より感謝申し上げます。

注文も10台ほど頂くことができ、何よりたくさんの来場者の方と対面でお話できたことは、とても実りの多い経験となりました。

私は普段、刀の展示ケースを製作するかたわら、刀についてのブログを毎日書いたり、ツイッターやフェイスブック、インスタグラムといったSNSで「刀のある暮らし」について発信しています。素人の視点で刀の魅力を多くの方、特にまだ刀を所持していない初心者の方に届けたいという思いから始めたことです。

肌感覚ではありますが、国内外問わず今回、私のブースに来てくださった方の7割ほどは私のSNSを見てくださった印象です。あらためてSNSの重要度を認識した次第です。

来られた方には制作したカタログを配布させていただきましたが、その減り具合から、3日間でおそらく500名ほどがブースに来てくださったと思いま

す。中には何度も来てくださったり、「〇〇店で刀や刀装具を買ったよ」と作品を持ってきて展示ケースに飾ってみる方も多く、私も愛刀家の方々との交流を楽しめました。

一方、海外では既に私の刀展示ケースの見た目だけを完全に真似た模倣品を製作している方もおり、その場で細かい情報を吸い出そうとする方もいました。この事態は公の場に出す上で予想はしていたものの、模倣品が本歌を越えることはないので、私としても張り合いがありません。ぜひオリジナルのものを製作され、お互いに競い合いたいものです。

来場者の中心は例年60歳代以上の男性が多い印象でしたので、金庫や刀簞笥等の保管が当たり前という感覚のところに、部屋に刀身を飾るという試みを提案することそのものに、酷評も多く頂こうと覚悟をしていました。しかし、予想とは裏腹に、面



中村さんと自作の展示ケース

大刀剣市フォトギャラリー

撮影／トム岸田



白いね、良いね、綺麗だね、考えられてるね、などといったポジティブな意見をその世代の方からも頂けたことは嬉しかったです。

これから「刀とくらす。」というコンセプトの下、日常で愛刀を楽しめる空間を作り出していきます。

今の子供たちが日常で刀の美しさに気付ける場所や機会、そんな偶然の刀との出会いの場を作り広めていくことが、10年、20年先の愛刀家を生むと、私

は信じています。床の間がなくなり、刀を飾るスペースがなくなったのなら、今の住宅に合うものを作ればいい。

日本の文化であり、魂として伝えられてきた日本刀の魅力を、多くの日本人にもう一度気づいてほしいと思います。

来年も大刀剣市に出店して良いと言っていただけのように、次の一年もまた精進いたします。

(刀箱師・中村圭佑)

「刀剣評価鑑定士」に期待される役割と組合の使命

深海 信彦

■全国中小企業団体中央会(東京都中央区新川1-26-19)は、わが国事業所の大半を占め、かつわが国経済社会の基盤を形成している中小企業の振興発展を図るため、その組織化と連携によってさまざまな支援を行っているわが国最大の中小企業団体であり、当組合も会員として長年指導を頂いてきた。その中央会から先ごろ「会員団体の取り組みの先進事例として貴組合を紹介したいので」と、深海理事長に寄稿の依頼があった。そこで、傘下2万7千の組合・団体、約230万企業で購読されている機関誌『中小企業と組合』1月号への掲載内容を、原文のまま、以下に転載する。

今日ほど「資格」の間われる時代はないと言っていいだろう。

資格と一口に言っても、①法律に基づき、国や国の委託を受けた機関が認定する国家資格、②所轄省庁や大臣が認定した審査基準に基づき、地方自治体や公益法人、民間団体等が試験を行い認定する公的資格、③民間団体や企業が独自の審査基準を設けて認定する民間資格に大別され、その数は①+②で約1,000件、③まで含めると3,000~5,000件に上るといふから、まさに「国民総資格社会」とも言えよう。

資格とは、何らかの仕事を依頼する側にとって信用度を推量する物差しであって、これからも多様化・細分化していくであろうニーズにあって、さまざまな資格が誕生していくと思われる。

★認定資格創設の経緯

当組合は、刀剣を中心に武家道具全般を扱う刀剣商によって組織された事業協同組合である。その刀剣商が日々仕事の頼りとしている資格は唯一、「古物商許可証」である。

職業分類上、骨董商・古美術商の一部としか見られなかった往時の状況を顧みれば、刀剣商として自立したとはいえ、古物営業法が規定する「古物」は

今やきわめて多岐にわたり、リサイクルショップや金券ショップ、OA機器のレンタル店までが古物商に含まれる。

古物商許可証以外の固有資格などないからこそ、長年の経験と努力で培われた鑑識眼や信用がものを言うとの声がある一方、一千年の伝統

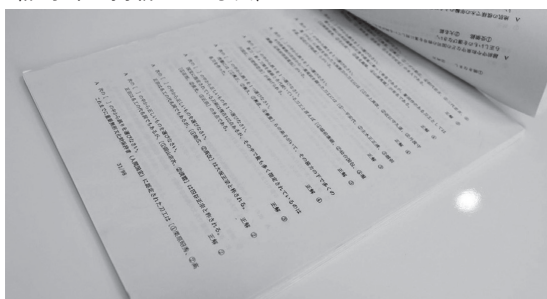
を有し、わが国の工芸品の中で国宝・重要文化財に最も数多く指定されている日本刀が、自称「刀剣商」や〇〇整理士、△△アドバイザー等によって安易に売買され、時には処分されている現実を見過ごしてよいのかとの危惧も大きかった。

また、刀剣商の〈社会的・経済的地位の向上〉も重要な目標の一つであるが、それには国内外の顧客との信頼構築が一層不可欠であり、そのために今やるべきこと、できることは何なのかを、長い時間をかけて組合内で議論を重ねてきた。



全国中小企業団体中央会
機関誌『中小企業と組合』

〈記事中で掲載された写真〉



試験問題



試験会場の様子

そうした経緯を踏まえ、平成28年5月の通常総会において、新たに「刀剣評価鑑定士」資格認定事業を満場一致で可決。時機到来、スタートを切ったのである。

★試験の実施から認定・活用まで

本資格の目的は「刀剣商として必要な知識・技能を明らかにし、その向上を図るとともに、刀剣の評価・鑑定に関する必要かつ十分な能力を認定する事業を通して、組合員ならびに本組合の社会的信頼と地位の向上を図り、もって刀剣の普及と発展に寄与すること」(規約)である。

試験内容を検討する上で、刀剣商に求められる要件をあらためて検討してみると、これが事前に想定した以上に広範囲にわたり、主として、①刀剣、②刀装・刀装具、③甲冑・武具、④作刀、⑤刀職、⑥評価・鑑定のそれぞれの基礎知識、さらに、⑦銃砲刀剣類所持等取締法ほか関係法令・通達、⑧古物営業法、⑨その他法律・通達、(特定商取引法・消費者契約法など)等も出題することとなった。

ただし、試験の難易度を上げて不合格者を輩出することが目的ではないので、出題形式は二肢択一方式とし、試験時間60分、百問中80問に正解すれば合格とした。

作問は本プロジェクトの委員20名がそれぞれ百問ずつ持ち寄り、全員で内容を検討。度重なる討議の

結果、約一千問の精選問題が作成された。

加えて、その試験問題の公平性・普遍性を担保するため、関係法令を所管する警察庁に加えて、業界内で専門知を有する(公財)日本美術刀剣保存協会、(公財)日本刀文化振興協会、(一社)日本甲冑武具研究保存会に監修を依頼し、万全を期した。

受験資格は、入組期間が5年以上の組合員もしくは賛助会員で、古物商許可証もしくは美術品商許可証取得後5年以上の経験者としたが、将来を見据えて、資格制限なしの公開模擬試験を実施。機関紙『刀剣界』でも資格内容を逐次広報するとともに、紙上模擬試験も掲載して精力的に普及に努め、令和元年4月、第1回の認定試験を実施。続いて同年6月に第2回、翌年8月(コロナ禍で順延)第3回と続き、組合が認定する総勢50名の刀剣評価鑑定士が誕生した。

本資格は、日々の営業活動でのPR活用はもとより、今後は日本刀を普及・啓発する伝道師としての活躍も国内外で大いに期待されるところである。

★最後に

武官は勇猛、文官は弱腰とも見られがちだが、国も組織も一部の階層だけでは維持・存続できない。組合運営も、役員・事務局が個々の組合員の商売には直接関与できなくとも、同じ業界に属する以上、共通の利益はあるはずで、それらを日々発掘していくことは重要な使命と考えている。

当業界においては、何をおいても刀剣の認知度(市場価値)ならびに理解度(文化価値)の向上がそれである。一般にはまだまだ「日本刀は危険物」等の見方も残っており、組合の果たす役割は依然として大きい。

さらに、近年は「刀剣女子」と呼ばれる若者層に加えて海外からのインバウンド需要も増加していることから、安全・安心に刀剣を売買する市場を拡大していくことは喫緊の課題であり、正確な知識と幅広い見識を持った刀剣評価鑑定士の存在意義はますます大きくなると確信している。

本資格の普及を通じ、組合員ひいては世界に誇る刀剣文化のさらなる飛躍と発展に努めていきたい。



組合HP

全国刀剣商業協同組合

住所：東京都新宿区大久保2丁目18番10号
新宿スカイプラザ1302号
TEL：03-3205-0601
URL：https://www.zentoshou.com/
理事長：深海 信彦



『やさしいかたな』改訂版発行に向けて

■刀剣の所持について正しい知識を知ってもらおうと、冊子『やさしいかたな』を刊行したのは平成3年。あれから30年以上がたち、新たなニーズも寄せられています。

●刀剣行政にも貢献

銃砲刀剣類所持等取締法は、美術品として価値のある刀剣類について登録することを定めています。登録を受けた刀なら誰でも所有することができ、それらの購入や売却も自由です。しかし、そこに誤解があったり、手続きがよく知られていなかったりすることなどから、まま敬遠され、その伝承や保存が危惧される場面もありました。

そこで、当組合ではこれらについての正しい知識を広くお伝えし、理解を深めてもらおうと、『やさしいかたな』を制作しました。以来、二度の改訂を経て、累計10万部以上を発行し、組合員・賛助会員の皆さまに大いに活用してきていただいたところで

す。この30余年間に、発見届に基づく登録が広く行われ、所有者変更届の提出が徹底してきたことに、本書の果たした役割は小さくなかったと考えます。国の刀剣行政に当組合の活動がいささかでも貢献していることは、うれしい限りです。

『やさしいかたな』が目指したもののや主要内容は少しも陳腐化していませんが、世の中の変化を見据えて不断に見直しをすることは必要です。今回、編集委員会では改訂を想定し、以下のような検討を行っています。皆さまからも建設的なアイデアが寄せられますことを期待しています。

●警察庁・文化庁の指導を得て

現状の体裁はA5判、中とじ、本文24ページですが、基本はこれを踏襲すべきとの意見がほとんどです。ただし、横組みで見やすくし、近年の類似書に倣って本文を4色・2色とすることもあるでしょう。情報量によっては、最大32ページとなります。

なお、ビジュアルの訴求効果から、刀剣マンガを描かれる著名作家に依頼することも想定しています。

本書は、全国の組合員・賛助会員を通して、本



に必要な方に確実にお届けしたいものです。平成25年の第4版出来時には、希望者に30部まで無料、それを超える場合は有料で頒布しましたが、次回も一定部数以上は、制作実費を勘案した有料頒布となるでしょう。

新たに取り入れたい内容として意見の多かったのは、刀剣評価鑑定士の役割でした。

刀剣類の寄贈や購入があった場合、公益法人や美術館・博物館では客観的な評価額を所管の官庁に届け出なくてはなりません。当組合に依頼があった際は、複数の評価鑑定士が評価査定して証書に記名します。相続に際しても同様です。刀剣評価鑑定士は、既に公的な業務として機能しているのです。

近ごろ、発見届の手続きの時に、しばしば刀を任意提出してしまったという例を聞きます。せっかくの文化財を失うことは回避すべきで、公的な見解を確認した上で明示したいところです。

いずれにしても、本書の内容は警察庁・文化庁の所管に関わる部分が大きく、両庁の指導と協力の下で改訂を進めていく予定です。

事例 43

もう一つの側面

数年前に地元ではない警察から電話があり、私が扱ったらしい脇指の照会がありました。経路と登録番号の確認でした。

その時点で1年前ぐらいのことだったので、「調べて返答する」と伝え、早速確認してみると、私が交換会で売却したものでした。警察に電話をし、私がA氏に売却した脇指であると言うと、「ああ、そうですね」で終わりました。

売却した先で何か問題があったのは想像できますが、例によって警察は詳しい事情は教えてくれません。

程なくして私が交換会で売却した相手A氏から謝罪の電話があり、事のあらましがわかりました。

それによると、A氏からB氏に渡し、さらにC氏に行き、C氏が登録証に記載された長さを改ざんしたらしい、とのことでした。

その脇指で事件を起こしたのではなく、別件で問題があり、偶然に改ざんが露呈したということらしいのです。

私もA氏も売買に関しては何の問題もないのですが、やりきれない気持ちでいっぱいです。その後、警察からは何か言うてくることはありませんでした。

いずれにしても不可抗力なことですが、実際にこういう問題が起こってしまうという現実には、刀剣を扱う者としてやるせないし、心が痛みます。

事例 44

日本刀の輸出を果たせずに戻ってきた場合でも、既存の登録証を無効化・返納し、再度現物確認審査を受けて新規に登録証を取得し直さなければならなかった事例について述べます。

今回、売却により英国に輸出した現代刀が英国税関より理由不明のまま返送されました。英国人購入者からは手続き書類不備が理由と説明を受けましたが、思い当たる節がありません。しかし、最終的には売買キャンセル、返金を行いました。

輸出送り先に渡らず、税関より返却を受けましたので、物件が維持特定されており、現物確認を受ける必要はないはずです。日本の税関にその旨を説明

すると、「税関としては登録証の有効性を登録証交付先が認めれば、現状での返却を行う」と言われました。

そこで登録証交付先教育委員会に照会しましたが、「銃刀法の法令解釈から、輸出手続きをいったん経た刀剣は、例外なく再度輸入手続きを経なければならない」との回答。文化庁担当部署からも同じ回答を受けました。

本件の場合、通常は新規登録になると旧登録証備考欄に付記されている製作承認番号の記載がなくなります。それでは当該現代刀の当初登録申請情報が全て失われますので、文化財情報の毀損に当たると思います。登録証制度の維持遵守は理解しています。しかし、文化財保護の観点からは、本件のように輸出の手続きを経たとしても、現物の維持特定が証明できる刀剣は、現物確認審査を再度行わず、既存の登録情報を維持継続させるべきと考えます。

本件はその旨を訴えたところ、既存登録証の発行教育委員会が新規登録証を発行する教育委員会に製作承認番号を伝えて、その情報が新規登録証に付記されることになりました。旧登録情報が新規登録証に付記されるという^{びほう}弥縫策を講じてもらったわけです。

本件のような既存登録情報を失う新規登録を極力避けるための柔軟な法令解釈、運用の議論がもっと活発に行われるべきと考えます。

事例 45

印紙をご購入ください

登録証の再交付について、岩手県教育委員会から封書で書類が届いた。再交付申請書を提出し、再交付代金を払うように書かれていた。よく見ると、「支払いには岩手県の印紙をお願いします」とある。岩手県の印紙を購入し、それを書類と一緒に送れ、ということだ。

県外の人間に県の印紙を購入せよ、というのは、何とも不思議な感じである。しかし、特例や例外は認めてくれるんだろう、「ほんとに印紙なんですけど、現金書留でもいいですよ」そんな柔軟な対応してくれるのだろうと期待しつつ、岩手県の担当者に電話をした。そうしたら……。

——再交付のお知らせが来ました。代金は印紙を買ってお支払いするのでしょうか？

担当者「はい、印紙をご購入いただきます」
——でも、現金書留でもいいのでしょうか？
「それはダメです。印紙を買ってください」
——印紙は東京でも買えますか？
「東京では買えません。岩手県でのみご購入いただけます」

——あの一、どの県も現金書留ですよ。ほんとにダメなんですか、印紙じゃないと。

「はい、岩手県は印紙なんです」

——「印紙はどこで、どうやって買うんですか？」

「案内に書かれている県の所定の部署へ現金書留で印紙代のお金を送ってください。そうしたら返信用封筒でお送りします」

——それって二度手間ではないですか？ 無駄じゃないですか？ 本当に現金書留ではダメなの？

「はい、ダメです。現金書留だと処理できません」

——とっても不便ですね。おかしいやり方ですよ。

「はあ……でも、そう決まっているんです」

——今まで、こんな風に文句言われたことはないんですか？

「ありません」

——こんなやり方は絶対変だと思いますよ。改善を強く希望します。

「はあ、検討はいたします…」

お金の支払いは、今や多様化し、そしてデジタル化が急速に進んでいる。マイナンバーカードを利用すれば、税金ですらスマホを使って支払うことができる時代になっている。

しかし、岩手県は、岩手県でしか買えない岩手県の印紙を、岩手県の所定の部署に現金書留を送って買い、岩手県から返信用封筒で送られてくる岩手県の印紙を、書類とともに岩手県教育委員会に送付する、という二度手間、三度手間のようなことを利用者に強いているのである。

東京都をはじめ、ほとんどの自治体で行われている現金書留による支払い（東京都の登録審査会場でびっくりしたのだが、都は登録証発行の料金をPayPayでも支払えるようにしていた。正直、これには本当にびっくりした！）が、なぜ岩手県では不可なのか。全く理解できない。

岩手県だけかと思ったら、そうではなかった。神奈川県在住の知人が千葉県の登録証の再発行で、千葉県の収入印紙を、現金書留で購入し、印紙を千葉県教育庁に送って再交付してもらった、と言うのだ。探せば同様の自治体が他にもいくつかあるのではなかろうか。そんな気がしてならない。

印紙を購入することで、印紙絡みの収入があるのだろう、と言う知人もいた。おのおの都合があるのだろう。が、県外の利用者に余計な手間とお金を掛けさせて平気、というのはいかなものだろうか。われわれが生きているのは日本国であって、かつて各藩がそれぞれ並び立った幕政時代の日本ではないのである。

それにしても、このようなスマートとは決して言えないサービスが、時代の流れに逆行して実施されていることにあらためて驚く次第である。

議 事

令和5年5月17日(水)、全国刀剣商業協同組合は第36回通常総会を東京美術倶楽部において開催しました。

午前10時、司会の嶋田伸夫常務理事より出席状況の報告があり、組合員総数163名中、出席者66名、委任状提出者73名、合計139名で過半数に達したため、総会は成立することが告げられました。

服部暁治副理事長の開会の辞に続いて深海信彦理事長より挨拶があり、その後、議長に選任された深海信彦理事長の進行で、各議案の審議に入りました(括弧内は報告者)。

〈第1号議案〉令和4年度事業報告承認の件(清水儀孝)、並びに令和4年会計報告承認の件(伊波賢一)、同監査報告(大西康一監事・冥賀亮典監事)、可決承認

〈第2号議案〉令和5年度事業計画案(清水儀孝)、可決承認

〈第3号議案〉令和5年度収支予算案(伊波賢一)、可決承認

〈第4号議案〉役員報酬の件(嶋田伸夫)、可決承認

〈第5号議案〉経費の賦課及び徴収に関する件(嶋田伸夫)、可決承認

〈第6号議案〉令和5年度借入金残高の最高限度に関する件(嶋田伸夫)、可決承認

〈第7号議案〉1組合員に対する貸付け、または1組合員の為にする債務保証の残高の最高限度に関する件(嶋田伸夫)、可決承認

以上について、審議は滞りなく終了しました。

〈第8号議案〉その他(質疑応答)、可決承認

〈第9号議案〉役員改選

組合員全員が、被選挙人になることが決定したため、笠原選挙管理委員長の下で投票が行われ、次の17名の新理事が選任されました(順不同)。

深海信彦・土肥豊久・服部暁治・伊波賢一・冥賀吉也・飯田慶雄・網取譲一・嶋田伸夫・赤荻稔・瀬下明・吉井唯夫・持田具宏・生野正・新堀孝道・大平岳子・松本義行・清水儀孝

その後、新理事による第1回の理事会が開催され、深海信彦理事長が満場一致で理事長に選任されました。

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

I 事業活動の概況に関する事項

令和4年度の組合事業につきまして、経済委員会の行う市場運営事業、共同販売事業、共同購買事業を柱に、総務委員会の行う教育情報事業、刀剣評価鑑定士制度による評価鑑定事業等を推進してまいりました。各部門別に分けて詳しく報告致しますが、市場運営事業は年2回の開催ながら毎月開催と変わらない総出来高を達成し、共同販売事業の目玉である「大刀剣市」は、コロナ禍の収束前の開催で例年より入場者数が減少し、会場設営費、印刷費等などの増額により、苦しい運営を迫られましたが、事業としては例年並みの実績を上げることができました。そして何よりも特筆されることは、共同購買事業が例年を上回る成果を収めたことであります。組合の信用と知名度が上がるにつれ、公共の機関、団体等よりの査定依頼が増え、実績につながっております。

組合の今後の内容充実により、全体の事業収入に対する割合が増加するものと期待されるところです。

II 運営組織の状況に関する事項

1. 組合員数及び出資口数(出資1口20,000円)

	前年度末 現在		期間中移動						本年度末 現在	
			加入		増資	退会				
	員数	口数	員数	口数	口数	員数	口数	員数	口数	
計	164	1,759	1	5	0	2	10	163	1,754	

賛助会員106名

2. 直前3事業年度の財産および損益の状況

(当該事業年度は含まない)

期	34期	33期	32期
年号	令和4年	令和3年	令和2年
項目	前期	前前期	前前前期
資産合計	¥87,002,800	¥102,917,229	¥96,314,584
純資産合計	¥85,016,630	¥84,022,386	¥79,424,304
事業収益合計	¥28,361,800	¥28,646,950	¥52,224,270
当期純利益金額	¥1,249,244	¥5,002,332	¥84,557

3. 組合組織

- (1)役員：理事17名、監事2名
(2)役 職：理事長1名、副理事長3名、
専務理事1名、常務理事2名
(3)相談役：朝倉万幸、飯田慶久 2名
(4)事務局：職員2名
(5)組 織：①経済委員会
②金融委員会
③総務委員会
(6)関連団体：全国中小企業団体中央会

4. 会議開催概要

第35回通常総会

- 令和4年5月17日 於東京美術倶楽部
総組合員数164名、出席者63名、委任状67名
第1号議案：令和3年度事業報告承認の件、承認
令和3年度会計報告承認の件、承認
監査報告、承認
第2号議案：令和4年度事業計画案決定の件、承認
第3号議案：令和4年度収支予算案決定の件、承認
第4号議案：役員報酬の件、承認
第5号議案：経費の賦課および徴収に関する件、
承認
第6号議案：令和4年度借入金残高の最高限度額
に関する件、承認
第7号議案：1組合員に対する貸付け、または1
組合員の為にする債務保証の残高の
最高限度額に関する件、承認
第8号議案：その他

理 事 会

- 第1回理事会 令和4年4月16日
第1号議案 第36期第35回通常総会に向けて、
承認
第2号議案 その他
第36期第35回通常総会 令和4年5月17日
第1号議案～第8号議案、承認
第2回理事会 令和4年6月16日
第1号議案 今期の事業運営について、承認
①刀文協・保存協会の諸事業に対
する後援についての件
②「大刀剣市」開催についての可
否、開催
③組合一時所有刀剣の所有者変更
届出について

④組合交換会での売買刀剣返品問
題について

⑤組合名を使用する無断後援につ
いて

その他 ①インボイス説明会・マイナン
バーカード普及促進について説
明

- 第3回理事会 令和4年7月12日
第1号議案 「大刀剣市」開催に向けての進捗
状況報告、承認
第2号議案 出展ブース代値上げ検討、承認
第3号議案 お宝鑑定開催について、承認
第4回臨時理事会 令和4年7月30日
第1号議案 「大刀剣市」カタログ作成の印刷
会社決定の件、承認
その他 重文室展示中止決定の件、承認
第5回常務理事会 令和4年9月12日
第1号議案 ①「大刀剣市」開催準備進捗状況、
承認
②カタログ作成他DMについて
組合より一般来場者に送付の
DM案内については本年より送
付中止とする、承認
第6回理事会 令和4年10月18日
第1号議案 「大刀剣市」事前説明会(19日)役
割分担の件、承認
第7回理事会 令和5年1月16日
第1号議案 令和5年度施政方針、承認
第2号議案 「大刀剣市」総括、承認
第3号議案 その他、承認

経済委員会

常務会3回、経済委員会2回、金融委員会5回、
総務委員会8回

5. 慶弔事項

*弔事 組 合 員：故 村上昌弘

池田広司氏 ご尊父様
山本一郎氏 ご母堂様
高島吉童氏 ご母堂様

Ⅲ 事業別概要

1. 経済委員会の事業活動

①市場運営事業

本年度も年2回の開催とし、5月17日(火)・12

月17日(土)と実施いたしました。

会場 東京美術倶楽部
取引方法 現金決済
手数料 4%

市場運営事業実績・共同購買事業実績

	場 所	日 時	出来高(円)		出席数
第1回	美術倶楽部	令和4年5月17日	29,134,500	組合員相互	73名
			13,479,000	組合員購入品	
			42,613,500	合計	
第2回	美術倶楽部	令和4年12月17日	39,508,500	組合員相互	66名
			27,539,000	組合員購入品	
			67,047,500	合計	
		5月・12月合計	109,661,000		

*評価査定件数：20件(組合事務局)

*出張評価査定件数：3件(地方出張)

②共同販売促進事業

「大刀剣市」は令和2年度、3年度が開催中止の止むなきに至り、令和4年度は3年ぶりの開催となりました。令和4年11月18日・19日・20日の3日間、東京美術倶楽部を会場として開催されましたが、入場者数は例年の70%くらいに止まりました。

しかし、久しぶりの開催は来場者、出店者共に将来への期待感を持たせるものでありました。カタログの印刷会社の変更や試験的なウェブでの商品紹介など様々な試行錯誤を行いつつ、より良い開催方法を模索しているところでもあります。

共同販売促進事業(大刀剣市)

期 日 令和4年11月18日～20日

場 所 東京美術倶楽部

総事業収入	¥27,325,643
総事業支出	¥21,749,200
事業利益	¥ 5,576,443

③共同購買事業

「美術刀剣所有者変更届書」 在庫 販売中
書籍購入在庫

肥前刀備忘録 在庫 10冊 販売中
佐野美術館図録(戦国武将の装い) 在庫 6冊 販売中
〃 (備前一文字) 在庫 3冊 販売中
甲冑武具重要文化資料 在庫 4冊 販売中
大名家秘蔵の名刀展 在庫 51冊 販売中

2. 金融委員会事業活動

のべ払い交換会を行う際は立替払金として商工

中金からの借入をこれに充当する。

3. 総務委員会事業活動

①教育情報事業

- イ. 年3回発行の新聞「刀剣界」・年1回発行の「全刀商」誌の継続
- ロ. 「刀剣評価鑑定士」の資格取得者の増加を図る
- ハ. 組合買取商品名義変更届諸作業
- ニ. 「やさしいかたな」在庫切れに伴う新版予定準備

②その他

- イ. 各都道府県警察署の依頼による法的盗難品触れの通知資料の配布・発信
- ロ. 組合員の慶弔庶務事項の処理
- ハ. 理事会、組合規約、事業報告・計画案等の総会資料、文書作成

令和5年度事業計画(案)

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1. 令和5年度事業計画(案)

組合の事業収入は、かつては市場運営事業に負うところが大きかったのですが、交換会の売買取手数料収入に依存する従来の運営方針では予算が達成できず、運営に支障を来しかねない状況が数年間続いております。そこで、市場運営事業に替わる収入源として共同購買事業、すなわち、主に公共機関・団体からの刀剣等の査定購入に注力をしているところがあります。この事業の成否は、組合そのものの絶大な信用性を大前提に、相談を電話等で受け、それを担当理事につなぐ事務局員の対応能力に左右されるところが大きい故に、事務局員の採用・教育等について万全の体制をとる必要があります。組合員相互の親睦と共同購買品の売却のため、年2回の交換会は今期も実施いたします。「大刀剣市」に関しましては本年度も11月17日・18日・19日の3日間、東京美術倶楽部を会場としてすでに開催が理事会決定され、会場予約も済ませておりますが、開催期間の3日間を2日間に短縮する意見も多数寄せられており、新しい理事・役員の協議の元、早々に決定されるはずであります。本年度はまた、教育情報事業活動も多忙を極めることが予測されます。年3回の新聞発行に加え、「やさしいかたな」新版的発行に取り組まなければなりません。そして「刀剣評価鑑定士」の認知度を上げる普及活動も視野に入れての活動も求められております。

①市場運営事業

本年も、昨年と同様に交換会を実施し、開催日を5月・12月の各17日と定めました。

- (1) 開催：2回
- (2) 会場：東京美術倶楽部、他
- (3) 方法：現金決済・交換会規約に基づく
- (4) 取引高：各回 3,000万円
- (5) 手数料：4%
- (6) 経費：一開催 30万円から40万円

②共同販売事業(「大刀剣市」とイベント)

昨年同様、東京美術倶楽部にて11月17日(金)・18日(土)・19日(日)の3日間に開催を予定しております。

③刀剣検定認定事業(仮称)

第1回公開試験一般向け(予定)

③共同購買事業

刀剣、書籍、その他、付帯用品の共同購買を継続します。

2. 金融委員会の事業活動

のべ払い交換会実施の際は融資を行います。

特定金融機関 → 組合員

(組合保証)

3. 総務委員会の事業活動

①教育情報事業

- ・『刀剣界』新聞年3回・『全刀商』誌年1回の発行の継続
- ・組合員証・賛助会員証作成(5年毎の更新)
- ・やさしいかたなの新版・文化庁等の監修予定準備

②「刀剣評価鑑定士」事業の認知度拡大と普及活動

③共同宣伝事業

- ・大刀剣市とイベント時の新聞・業界紙・インターネットへの広告発信
- ・産経新聞・読売新聞・日経新聞・フジサンケイ・ビジネス・アイ・刀剣美術他への刀剣類関係の記事掲載
- ・カタログ作成配布
- ・業界他団体との共同事業計画
(全日本刀匠会・公益財団法人日本美術刀剣保存協会・公益財団法人日本刀文化振興協会等)
- ・他関係機関、団体への広報活動

④古物営業法変更等に伴う諸作業

- ・所有者変更手続きの簡素化を引き続き関係官庁に要請

⑤その他

- ・盗難品触れの配布・関係団体との折衝・通知資料の配布

3. 令和5年度 収支予算(案)

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

〈収入の部〉

科目	金額	備考
市場運営事業収入 交換会受取手数料収入	¥2,660,000	交換会 ¥2,400,000 (¥30,000,000×4%×2回) 交換会会費収入 ¥260,000
共同販売事業収入	¥25,000,000	大刀剣市出店費用収入金(国録代・NET代含)

共同購買事業収入(市場運営)	¥7,500,000	組合買取品 売却収益(見込)
資格認定事業収入	¥550,000	資格認定試験・認定書
	¥600,000	やさしいかたな(小冊子)作成
賦課金収入	¥3,500,000	組合員(165人×18,000)=2,970,000 賛助会員(106人×5,000)=530,000
評価鑑定事業収入	¥1,000,000	個人・法人査定料(見込)
事業外収入	¥400,000	受取利息・受取配当金・雑収入
合 計	¥41,210,000	

〈支出の部〉

5年度予算案合計費用 ¥41,210,000		
科 目	金 額	備 考
事業費	¥25,510,000	
市場運営事業費	¥560,000	交換会運営費(会場費・手当・お弁当代・借入利息)
共同販売事業費	¥21,000,000	大刀剣市開催費用 (会場設営・全国紙他HP広告代・カタログ作成等他)
評価鑑定事業費	¥500,000	査定旅費交通費
教育情報費	¥2,300,000	組合新聞発行(刀剣界・全刀商誌)他
	¥600,000	やさしいかたな作成
資格認定事業費	¥500,000	受験料・認定書発行料
事業運営費	¥50,000	総会、他の事業費
一般管理費	¥15,700,000	
給料	¥7,700,000	職員給与与他 人件費等
福利厚生費	¥1,370,000	社会保険料・労働保険料他
広告宣伝費	¥450,000	日刀保・産経年賀・組合HP
旅費交通費	¥800,000	運搬交通費・駐車場費・定期代等
通信費	¥1,100,000	電話・インターネット・携帯・宅配・メール便・電報
水道光熱費	¥250,000	ガス・水道・電気
事務用消耗品費	¥500,000	リース料・カウンター料・事務用消耗品等
備品消耗品費	¥300,000	備品・消耗品等
租税公課	¥1,000,000	諸税金・印紙
交際接待費	¥160,000	渉外関係
慶弔費	¥50,000	慶弔費
管理費	¥700,000	スカイプラザ(組合)
〃	¥95,000	アルソック警備費
諸会費	¥200,000	関係団体(全国中小企業団体中央会)
支払手数料	¥800,000	顧問料(税理士・司法書士)
減価償却費	¥45,000	減価償却費
会議費	¥30,000	理事会、委員会他
雑費	¥150,000	諸雑費
合 計	¥41,210,000	¥41,210,000

入金残高の最高限度額を2億円と定める。

7. 1 組合員に対する貸付け、又は1 組合員の為にする債務保証の残高の最高限度額に関する件
1 組合員に対する貸付け、又は1 組合員の為にする債務保証の残高の最高限度額3,000万円と定める

8. その他

9. 役員改選

4. 役員報酬の件

役員は無報酬とする。

5. 経費の賦課及び徴収に関する件

令和5 年度12 ヶ月分の賦課金は次の方法により徴収する。

定額一律賦課徴収

現金又は振込一括納入 1,500円×12ヶ月 = 18,000円

賛助会員 年会費 = 5,000円

6. 令和5 年度借入金残高の最高限度額の件

組合事業振興資金に充てるため金融機関からの借

令和5年度役員・委員会

役 員	
理 事 長	深海信彦
副理事長	伊波賢一・土肥豊久・服部暁治
専務理事	清水儀孝
常務理事	嶋田伸夫・網取譲一
理 事	赤荻 稔・飯田慶雄・大平岳子・生野 正・新堀孝道・瀬下 明・松本義行・冥賀吉也・持田具宏 吉井唯夫
監 事	大西康一・冥賀亮典
相 談 役	朝倉万幸・飯田慶久

委 員 会	
各委員会代表 理事長／深海信彦	
1 経済委員会（組合の経済事業全般）	
委 員 長	土肥豊久
副委員長	清水儀孝・新堀孝道
① 交換会運営部会	
	部会長／土肥豊久 瀬下 明・新堀孝道・松本義行・吉井唯夫・生野 正・飯田慶雄・青年部
買高担当	土肥豊久・網取譲一・服部暁治・松本義行
② 評価査定部会（組合事務所内及び出張査定・買取・委託等担当）	
	部会長／清水儀孝 相談役／飯田慶久 服部暁治・嶋田伸夫・網取譲一・新堀孝道・松本義行・持田具宏・赤荻 稔・飯田慶雄
③ 共同購買部会（「やさしいかな」出版管理及び書籍等の購買・組合員頒布）	
	部会長／嶋田伸夫 網取譲一・持田具宏・生野 正・大平岳子
2 金融委員会（主として交換会立替払資金管理及び金融機関との交渉）	
委 員 長	服部暁治
副委員長	網取譲一・嶋田伸夫 瀬下 明・新堀孝道・松本義行・大平岳子・飯田慶雄
3 総務委員会（組合運営の総括管理）	
委 員 長	伊波賢一
副委員長	清水儀孝・嶋田伸夫
① 「刀剣評価鑑定士」事業部会（刀剣評価鑑定士事業の運営・管理及び資格認定等）	
	部会長／冥賀吉也 清水儀孝・嶋田伸夫・瀬下 明・新堀孝道・服部暁治・土肥豊久・伊波賢一 松本義行・生野 正・大平岳子・赤荻 稔・大西康一・飯田慶雄
② 広報企画部会（大刀剣市の宣伝広告他）	
	部会長／伊波賢一 清水儀孝・嶋田伸夫・飯田慶雄・瀬下 明・生野 正
③ 調査研究部会（組合ホームページ及び関連インターネット全般）	
	部会長／服部暁治 嶋田伸夫・生野 正・新堀孝道・松本義行・飯田慶雄
④ 組合員向上部会（組合員のレベルアップ）	
	部会長／伊波賢一 清水儀孝・嶋田伸夫・網取譲一・生野 正・吉井唯夫・服部暁治・松本義行
⑤ 教育情報部会（新聞「刀剣界」及び「全刀商」誌の編集・発行・管理）	
	部会長／清水儀孝 赤荻 稔・大西康一・伊波賢一・嶋田伸夫・清水儀孝・生野 正・新堀孝道・瀬下 明・網取譲一 土肥豊久・服部暁治・松本義行・冥賀吉也・持田具宏・大平岳子・吉井唯夫・飯田慶雄 編集責任者／土子民夫
⑥ 防犯対策部会	
i) 登録証・鑑定証・認定書等の問題対応及びコンプライアンス全般	
	部会長／清水儀孝 冥賀吉也・瀬下 明・服部暁治・伊波賢一・松本義行・飯田慶雄・赤荻 稔
ii) 重要品触れほか防犯行政協力	
	部会長／嶋田伸夫 伊波賢一・網取譲一・持田具宏・飯田慶雄・事務局
⑦ 福利厚生部会（組合員・賛助会員全体の情報収集）	
	部会長／大平岳子 吉井唯夫・持田具宏・飯田慶雄・大西康一
4 青年部	
	冥賀亮典・服部一隆・藤田裕介・新堀賀将・大平将広・土肥富康・深海雄一・杉浦弘幸・芦澤 淳

令和4年度組合活動の記録

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- 4月4日 銀座長州屋において『刀剣界』第63号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・土子民夫氏
- 6日 服部副理事長と清水専務理事が刀剣評価査定のため静岡県磐田市に出張
- 7日 刀剣評価査定のため嶋田常務理事と生野理事が組合事務所に来所
- 7日 東京美術倶楽部において開催された全国美術商連合会理事会に伊波副理事長が出席
- 12日 参議院議員会館において開催された「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」総会に深海理事長・伊波副理事長・清水専務理事が出席
- 16日 東京美術倶楽部において第36期第1回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・松本理事・冥賀理事・大西監事・冥賀監事・土子氏・(事務局)有山・濱崎
- 16日 大西監事・冥賀監事が会計監査
- 28日 刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
- 5月12日 (公財)日本美術刀剣保存協会より「令和の名刀・名工展」(8月6日～)の後援依頼(承諾)
- 13日 刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
- 17日 東京美術倶楽部において第35回通常総会を開催。出席者63名、委任状67名、合計142名
- 17日 東京美術倶楽部において特別交換会を開催。参加73名、出来高42,613,500円
- 17日 東京美術倶楽部において第36期第2回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事
- 17日 東京美術倶楽部において『全刀商』編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・(事務局)濱崎
- 6月7日 ホテルニューオータニにおいて開催された信和会政経セミナーに服部副理事長と清水専務理事が出席
- 13日 刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が来所
- 16日 東京美術倶楽部において第36期第3回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・赤荻理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・冥賀監事・飯田相談役・(事務局)濱崎
- 16日 東京美術倶楽部において『全刀商』編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・土子氏
- 16日 (公財)日本刀文化振興協会より「日本刀の匠展」(10月29日～)の後援依頼(承諾)
- 22日 深海理事長・清水専務理事・嶋田常務理事が警察庁生活安全課を訪問
- 27日 東京美術倶楽部において開催されたインボイス説明会に事務局・濱崎が出席
- 7月12日 東京美術倶楽部において第36期第4回理事会・大刀剣市実行委員会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・冥賀監事・飯田相談役
- 12日 東京美術倶楽部において『全刀商』編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・冥賀監事

事・飯田相談役・土子氏

22日 刀剣評価査定のため綱取常務理事と生野理事が横浜市に出張

25日～8月6日 藤代スタジオにおいて大刀剣市カタログ用の写真撮影

30日 新橋プラザビル1401号室において臨時理事会・大刀剣市実行委員会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・土子氏・(事務局)濱崎

8月5日 第一ホテル両国で開催された「令和の名刀・名工展」表彰式に深海理事長が来賓として出席

8～9日 新橋プラザビルにおいてタケミアートが大刀剣市カタログ用の写真撮影

30日 深海理事長と土子氏が参議院議員会館に山田宏議員を訪問し、取材

9月6日 刀剣評価査定のため嶋田常務理事が来所

9日 嶋田常務理事と綱取常務理事が産経新聞社を訪問し、大刀剣市の後援を依頼

12日 東京美術倶楽部において第36期第6回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・(事務局)有山

16日 東京美術倶楽部において持ち回り理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・吉井理事

16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第64号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・赤荻理事・生野理事・土子氏

26日 組合事務所において『大刀剣市カタログ』編集委員会を開催。出席者、服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・持田理事・土子氏

29日 東京プリンスホテルにおいて開催された「和田よしあき君を励ます会」に清水専務理事と嶋田常務理事が出席

30日 深海理事長が全国中小企業団体中央会機関誌の取材を受ける

10月5日 刀剣評価査定のため服部副理事長と嶋田常務理事が来所

7日 組合事務所において『大刀剣市カタログ』編集委員会を開催。出席者、服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・土子氏・(サンコーリンクス)猪狩氏

13日 清水専務理事・嶋田常務理事・土子氏がサンコーリンクスにて『大刀剣市カタログ』の出張校正

18日 東京美術倶楽部において第36期第7回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・土子氏・(事務局)有山

19日 東京美術倶楽部において大刀剣市事前説明会を開催

11月3日 明治神宮宝物殿において開催された「日本刀の匠展」の奉納鍛錬に伊波副理事長が来賓として出席

16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第65号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・飯田相談役・土子氏

18～20日 東京美術倶楽部において第34回大刀剣市を開催

28日 参議院議員会館において開催された「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」総会に深海理事長・清水専務理事・土子氏が出席

29日 第一ホテル両国で開催された「現代刀職展」表彰式に深海理事長が来賓として出席

12月16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第65号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・吉井理事・飯田相談役・土子氏

17日 東京美術倶楽部において特別交換会を開催。参加66名、出来高67,047,500円

23日 銀座長州屋において『刀剣界』第65号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・服部副理事長・清水専務理事・生野理事・土子氏

- 1月13日 組合事務所において服部副理事長と清水専務理事が刀剣評価査定
- 16日 東京美術倶楽部において第36期第8回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・冥賀監事・濱崎事務局員
- 18日 組合事務所において深海理事長が刀剣評価査定
- 23日 組合事務所において服部副理事長が刀剣評価査定
- 26日 組合事務所において服部副理事長・清水専務理事が刀剣評価査定
- 27日 刀剣評価査定のため深海理事長と清水専務理事が日本美術刀剣保存協会を訪問
- 27日 銀座貸会議室において資格認定試験についての会議を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・飯田理事・土子民夫氏
- 31日 組合事務所において嶋田常務理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事が刀剣評価査定
- 2月7日 事務所改修工事の打ち合わせのため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
- 16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第66号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・土肥富康氏・土子氏
- 21日 服部副理事長・清水専務理事・綱取常務理事が産経新聞社を訪問し、「明美ちゃん基金」に34万円を寄託
- 21日 組合事務所において服部副理事長と清水専務理事が刀剣評価査定
- 24日 組合事務所において深海理事長が刀剣評価査定
- 3月6日 組合事務所において服部副理事長と清水専務理事が買入商品の管理作業
- 7日 銀座長州屋において深海理事長・清水専務理事・嶋田常務理事が事務局員採用につき面接
- 8日 刀剣評価査定のため深海理事長と嶋田常務理事が日本美術刀剣保存協会を訪問
- 10～20日 組合事務所改修工事
- 12日 東京美術倶楽部において『やさしいかな』改訂検討会議を開催。出席者、深海理事長・土肥副理事長・服部副理事長・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・生野理事・冥賀理事・飯田相談役・土子氏
- 16日 東京美術倶楽部において第36期第9回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・松本理事・冥賀理事・大西監事
- 16日 東京美術倶楽部において常務理事会を開催し、事務局員1名の採用を決定
- 16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第66号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・松本理事・冥賀理事・土子氏

暑中お見舞い申し上げます

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂

川島 貴敏

〒104-0061
東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階
TEL 03-3228-9136
FAX 03-3228-9136
MAIL tabundo@herbocare.jp
URL <http://www.tabundo.com>

やしま

齋藤 隆雅
齋藤 久稔

東京都西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-4463-1531
FAX 042-4463-1795

武蔵国一の宮美術刀剣・骨董品居合道・古式銃専門
有限会社 清水商会

代表取締役
清水 敏行

〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-7
TEL 048-668-0773
FAX 048-647-7434
URL <http://www.surplusleopard.com/>

株式会社 安東貿易

代表取締役

安東 孝恭



刀剣チャンネル
→YouTube

岡山県岡山市北区清輝橋2-1-132
TEL 086-226-1125
URL <http://www.katana-ando.co.jp>

有限会社 勝武堂

大平 岳子

東京都中野区本町4-45-10
TEL 03-3381-3071
MAIL info@shoubudou.co.jp
URL <https://www.shoubudou.co.jp>

川越 優古堂

三浦 優子

埼玉県川越市新宿町1-9-13
TEL 049-249-0700
FAX 049-249-0702

日本刀販売買取 有限会社 葵美術

代表取締役
鶴田 一成

渋谷区代々木1-54-6
TEL 03-3375-5553
MAIL info@aojapan.jp
URL <http://www.aojapan.jp>

刀剣美術 静心堂

芦澤 一幸
芦澤 淳

〒272-0826 千葉県市川市真間2-1-26
TEL/FAX 047-321-1039

株式会社 刀剣柴田

柴田 光隆

〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-9
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL <http://www.tokenshibata.co.jp>

つるぎの屋

冥賀 亮吉
冥賀 亮典

東京都北区西ヶ原4-35-1
TEL 03-3576-1753
URL <https://www.isuruginoya.com/>

阿雲亭

笹原 俊和

〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮町宮地150
携帯 090-3078-4044

刀剣研師

白木 良彦

〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-17
TEL 03-3643-3228

刀剣・書画・骨董・茶道具
ギャラリーみそのう

御園生 敏明

東京都江東区亀戸2-8-6 長谷川ビル1F
TEL 03-5626-6134
FAX 03-5626-6134

銀座 盛光堂

齋藤 恒

東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251 (代)
URL <http://www.ginzaseikodo.com>

飯田 高遠堂

飯田 慶雄

東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3395-1331
URL <http://www.iidakendo.com>

株式会社 真玄堂

〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3225-1778
FAX 03-3225-1141
MAIL info@samuraigallery.com

暑中お見舞い申し上げます

奈良県無形文化財保持者

月山 貞利

〒633-0073
奈良県桜井市大字茅原228-8
TEL・FAX 074-42-3230
URL <http://gassan.info>



(株) 永和堂

朝倉 万幸
朝倉 忠史

長野県長野市南郷町1-13-6
TEL 026-228-0001

刀剣・書画・骨董

株式会社 和敬堂

土肥 豊久
土肥 康久

新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-331851
FAX 0258-331851
URL <http://www.wakeidou.com>

(株) 日本刀剣

伊波 賢一

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321

(株) 晴雅堂清水

代表取締役

清水 儀孝

〒111-0032 台東区浅草2-30-11
TEL 03-3842-3777

株式会社 丸英刀剣

栃木県小山市乙女3-7-30
TEL 0285-4510158

日本刀 銀座 丸英

東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階
TEL 03-6264-0739



株式会社
美術刀剣松本 東京西葛西店

松本 義行

〒134-0088
東京都江戸川区西葛西6丁目13-14 丸清ビル3F
TEL 03-6456-0889

高吉 刀剣

代表

高島 吉童

東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1111
FAX 03-5394-1111
URL <http://www.prem.co.jp>

赤荻刀剣店

赤荻 稔

茨城県下妻市下妻乙172-5
TEL 0296-4412643

陽々 gallery youyou

刀装具・武具・古美術
山梨県北杜市長坂町中丸1712-7
Tel. 0551-45-8113
www.galleryyouyou.com

株式会社 舟山堂

稲留 修一

〒332-0011
埼玉県川口市元郷2-15-11-1309
TEL 048-222-8195

日本刀研磨諸工作承ります
美術工芸武神

研師 黒田 充弘

〒514-0022
三重県津市愛宕町158
TEL 059-261-1982
<https://www.nihonto-togis.com/>



代表者

網取 譲一

東京都中央区八丁堀3-1-3 飯野ビル1階
TEL 03-6280-4987

新堀美術刀剣

新堀 孝道

〒241-0024
横浜市旭区本村町40-7
TEL 045-364-2893

銀座 誠友堂

千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館2階
TEL 03-3558-8001
URL <http://www.seiyudo.com>

株式会社 山城屋

代表取締役 嶋田 伸夫

東京都豊島区巢鴨1-21-8
TEL 03-3942-2701

暑中お見舞い申し上げます

もちだ美術

持田 具宏

さいたま市中央区上落合1-9-4447
TEL 048-855-4792

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井 唯夫

大阪市中央区日本橋2-7-1
TEL 06-6631-2210
FAX 06-6644-5464

銀座長州屋

東京都中央区銀座3-10-4

服部美術店

東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3274-5170

大和美術刀剣

大西 康一

さいたま市南区大谷口5-277
TEL 048-875-2122

全刀商 第32号

令和5年8月10日発行

発行所 全国刀剣商業協同組合

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目18番10号 新宿スカイプラザ1302

Tel 03(3205)0601 Fax 03(3205)0089

発行人 深海 信彦

編集 『全刀商』編集委員会

赤荻 稔 飯田慶雄 伊波賢一 大平岳子 嶋田伸夫 清水儀孝 生野 正 新堀孝道 瀬下 明 土子民夫 網取譲一 土肥豊久 服部暁治
深海信彦 松本義行 冥賀吉也 持田具宏 吉井唯夫

